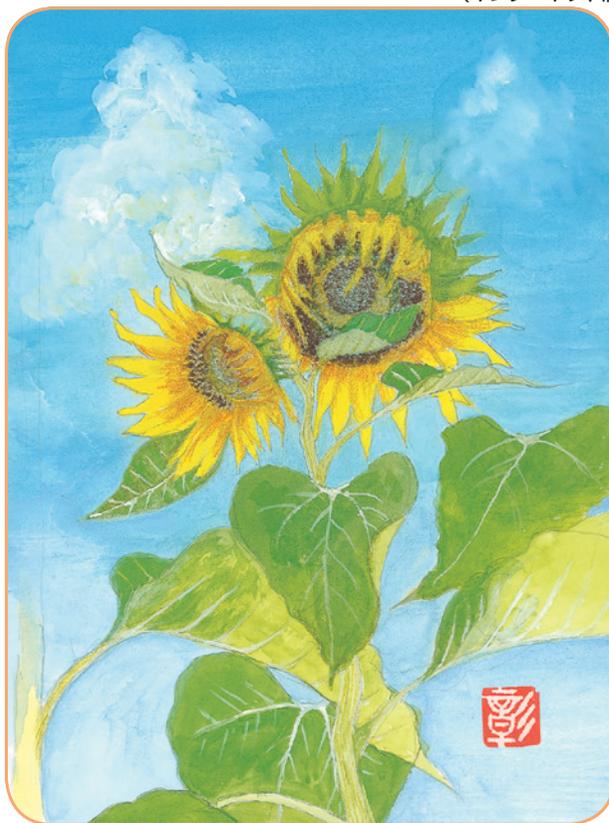


大阪医科大学学報

第85号 平成22年8月
(インターネット版)



ひまわりと夏空

◆目

看護学部開設記念式典	2
看護学部教授紹介	3
新任教授紹介	7
理事長所信表明	8
永年勤続表彰	13
受賞等について	15
叙勲について	16
学位記授与式	17
平成21年度決算について	18
三大学医工薬連環科学シンポジウム	23
中山国際医学医療交流センター	24
市民公開講座	33
医学会春季学術講演会・学内行事	34

◆次

看護専門学校	36
病院看護部	37
大学安全対策室活動報告	38
医療安全対策室	39
感染対策室・キャリア形成支援センター	40
緩和ケア研修会報告	41
寄付金報告	42
主要会議報告	44
行事日程	48
保健管理室からのお知らせ	49
病院ボランティア支援委員会	51
歴史資料館関係・俳句	52

看護学部開設記念式典

看護学部開設記念式典

日 時：平成22年 5月22日（土）13：00～
場 所：大阪医科大学 看護学部・講堂

■大阪医科大学看護学部開設記念式典と祝賀会

平成22年4月1日に大阪医科大学に看護学部が設置されました。その開設記念式典が、5月22日(土)午後1時から4時まで、看護専門学校の講堂で行われました。まず、学校法人大阪医科大学理事長植木實先生と大阪医科大学学長竹中洋先生よりご挨拶をいただきました。次に文部科学省からは、高等教育局医学教育課・課長補佐の渡部廉弘氏よりご祝辞を賜りました。引き続き、社団法人大阪府看護協会会長豊田百合子様からもご祝辞をいただきました。さらに、来賓の先生方が紹介されました。

その後、記念講演として、聖隷クリストファー大学学長の小島操子先生より、「これからの看護教育について期待すること」と題した記念講演が行われました。当日は、看護学部生や看護専門学校生は参加していませんでしたが、学生にもぜひ聞かせたい素晴らしい内容でした。その後、本学学生である北野裕孝君のバイオリン、金沢みなつさんのピアノ、池田千鶴子さんのハーブの演奏があり、出席者一同大いに癒されました。最後に、看護学部長の林先生より謝辞が述べられました。

引き続き会場を大阪医科大学本館図書館棟地階食堂に移し、記念祝賀会が行われました。まず、高槻市副市長 清水怜一様より祝辞を賜わり、その後、京都大学医学部附属病院看護部長の任和子様よりお祝いのご挨拶をいただきました。その後、木下光雄病院長が乾杯の音頭をとられ、和やかな雰囲気の中、祝賀会が行われました。

(文責 看護学部 教授 元村 直靖)



■看護学部開設記念式典にあたって

学長 竹中 洋

本日はご多忙中にも関わらず、文部科学省高等教育局医学教育課・課長補佐渡部廉弘様を始め、行政や近隣諸大学並びに多くの関係団体からご来賓がご参集頂いております。厚く御礼申し上げます。

げます。また、学内からも多くの教職員がお集まり頂き有り難うございます。

さて、本年4月に大阪医科大学に看護学部が新設されました。先ず平成20年から始まった開設に係る種々の努力が実ったことを、皆様と率直に喜びたいと思います。

看護学部の開設は、多くの果実を本学に提供してくれました。その1つは、大きな事業を成功に導く努力の重要性と課題を克服してゆく熱意が形成されたことです。次に、我々は医学部教員以外の教育経験を持つ教員とともに働く環境を得ることができました。狭義に医学の実践と考えられる医療は、広義には人の営む全ての事項と密接に結びついています。従って、教育者は不断の努力と社会適応の柔軟性が要求される立場にあります。看護学部の教員と医学部教員の交流は、本学の教育姿勢に大きな影響を与えること、それが両学部の学生に新しい医療教育として還元される可能性を秘めています。大阪医科大学が“教育維新”を実現する時空間に足を進めたと考えています。

本学教育の近未来を表現するフレーズとして「医看融合」が語られています。私達は、医療の中心は飽くまで「病める人」と考えています。病人は医療を受ける立場で、医療を提供する側に、医師や看護師、薬剤師、栄養士、保健師、理学療法士、作業療法士など実に多くの専門家が存在します。これらの専門領域の有機的なネットワークは、一步踏み込んで観察すると、病人にとって望ましい医療を実現する為に、医療の提供主体者が変わることです。コメディカルが医療提供の主体者として「病める人」と向き合うことが要求される時代が到来しています。

「医看融合」は単なるチーム医療ではなく、大阪医科大学の新しい教育理念として具体的に教育カリキュラムに反映されるものであります。この初心と感動を忘れることなく育てることをお誓い申し上げまして学長挨拶の結びとさせていただきます。



看護学部 教授紹介

精神看護学 荒木 孝治 教授

このたび、精神看護学領域の教授を拝命いたしました。

私は、立命館大学で哲学を専攻したのち民間精神科病院に就職し、勤務の傍ら大阪府立看護短期大学にすすみ看護師資格を取得しました。臨床に携わる中、更に患者理解を深めたいとの思いを強くし、関西大学大学院博士課程（教育心理学）に在籍し、臨床心理学および現象学的心理学の方法を通して統合失調症患者の事例研究を重ね、学位（博士）を取得いたしました。ふりかえれば看護師としての病棟勤務10年、心理室勤務5年、大阪府立大学看護学部での教育職10年を経て現在に至っております。



学部として新たなスタートを切った重要な時期に就任し、教育に携われることを光榮に存じます。今後の発展に微力ながら貢献できますよう、尽力してまいりたいと思っておりますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

看護学部教授紹介

看護学部 教授紹介

老年看護学 小林 貴子 教授

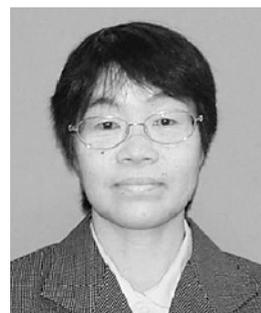
看護学部開設に伴い老年看護学教授として着任致しました。どうぞ宜しくお願い致します。

私は、都内で看護師免許取得後、東京虎ノ門病院での看護師勤務を経て、看護教員養成コースを修了し看護基礎教育に入りました。専門学校、短期大学、大学、大学院教育と看護学教育の急速な変化とともに、私自身も多様な教育形態のすべての看護教育に携わり、考えてみましたら今年30年目となります。

生活の場は、長く首都圏でしたが浜松医科大学に7年（助教授）、岐阜医療科学大学4年間（教授）を東海圏、そして、この度初めて関西圏に入りました。大阪は「本音と笑いの文化がある地域」と勝手なイメージを抱き、新生活に馴染めるであろうかと妙な不安で一杯でした。

現在は高槻市民となって3カ月が過ぎ、地域の探索を楽しみ、市民図書館のネット予約の利便性に感謝し、単身赴任生活をしています。修得学位は修士（教育学）、博士は単位取得満期退学（看護学）と道半ばです。

この度のご縁を大切に、看護学部の教育目標を達成することにより、大阪医科大学の発展に貢献できるよう微力ながら精一杯職務を果たしたいと考えます。どうぞご指導ご鞭撻の程をお願い申し上げます。



公衆衛生学 土手 友太郎 教授

このたび関係諸氏のご尽力のお陰様をもちまして公衆衛生学担当教授として赴任させて頂くことになりました。早いもので入学来すでに30年間、本学にお世話になっている事になり、改めて感謝いたしております。前職中は主に産業保健領域（化学物質の有害影響）の知識の啓発および研究とフィールドワークに携わっておりました。また関連学会において看護領域の方々の熱意に触れる機会が多く、かねがね敬服の念を抱いておりました。今後とも同領域の発展が、日本の医療にとって重要性を増すことは必然と存じます。従って母校であり、しかも第一期の看護学部生に対しフレッシュな環境で教育活動ができることを、大変光栄に存じております。これからは医学部での経験と教訓を礎にして、できる限り、斬新なアイデアを捻出しながら、粘り強く創意工夫に挑戦し、看護領域の教育および研究（職域のメタボリックシンドローム対策）の発展に微力ながら貢献する所存でございます。



【略歴】

昭和61年	大阪医科大学 卒業
	大阪医科大学附属病院にて臨床研修(整形外科学教室)
平成5年	大阪医科大学 衛生学・公衆衛生学教室 助手
平成8年	同上 講師
平成17年	同上 助教授
平成22年	大阪医科大学 看護学部 公衆衛生学担当 教授

病理学 前田 環 教授

この度、新設された看護学部教授を拝命しました。「病気の成り立ち」「からだの仕組みと働き」「生物学」などを担当いたします。

私は本学卒業後、故濱本祐二名誉教授のもとで病理解剖と研究の基礎を学び、森浩志名誉教授のご指導で内分泌病理、特に下垂体の分泌機能についての動物実験と一般病理診断業務に取り組みました。前任校では神経変性疾患の剖検を経験して興味を抱き、今後の課題とすべく勉強中です。また、旧第二病理教室では学部学生・大学院生の教育に、他学では臨床検査技師・看護師の育成にも従事して参りました。その経験を踏まえて、基礎医学全般が看護に繋がるという視点を学生に伝えること、系統解剖の見学や基本的な実習を通して学生の理解を深め知識を体得させる機会を増やすことが目標です。理想的な医師・看護師像は一概に決めつけられませんが、必要条件である基礎知識習得の一翼を担うことで、本学の発展に寄与したいと考えております。



【略 歴】

昭和59年3月：大阪医科大学卒業	平成12年4月：神戸常盤短期大学(現・神戸常盤大学)衛生技術科助教授
昭和59年4月：大阪医科大学医学部 第二病理学教室助手	平成16年4月：藍野大学 医療保健学部 看護学科教授
平成2年3月：大阪医科大学医学部 医学博士	平成22年4月：大阪医科大学 看護学部 教授
平成2年5月：大阪医科大学医学部 第二病理学教室講師	
平成2年8月：米国ミシガン大学(Ann Arbor)留学(平成4年3月まで)	



基礎看護学 道重 文子 教授

平成22年4月1日付で看護学部教授に着任致しました。私は、徳島大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程を卒業後、北里大学病院、徳島大学歯学部附属病院で看護師として15年勤務後、徳島大学医療技術短期大学部、徳島大学医学部保健学科、京都橘大学看護学部において看護学教育に携わり15年が過ぎました。基礎看護学とくに看護技術教育を担当してきました。歯学部附属病院での勤務は、医療チームにおける看護職の役割を考えさせられる機会となり、調整役(コーディネーター)として活動できる判断力や行動力をもつ看護職の育成が必要と考え教育職に転じました。今後、看護職が専門職として発展していくためには、看護実践の根拠を科学的に証明していくことや看護ケアの開発が必要と考えています。本学は、実習病院をもち、看護学部専門基礎科目を担当していただく専任教員が配置され、また、医学部の先生方にも基礎教育を担当していただくなど、看護教育、研究をしていくための環境が整備されています。恵まれた環境の下、これまでの経験を生かし、看護実践能力を有する人材の育成に寄与したいと考えています。



【略 歴】

昭和52年3月：徳島大学教育学部特別教科(看護)教員養成課程卒業	平成7年4月：徳島大学医療技術短期大学部 講師
昭和52年4月：北里大学病院看護部 看護師	平成12年4月：徳島大学医療技術短期大学部 助教授
昭和54年10月：大阪府立看護短期大学 助手	平成13年10月：徳島大学医学部保健学科看護学専攻助教授
昭和57年4月：徳島大学歯学部附属病院看護部 看護師	平成18年4月：京都橘大学看護学部教授
平成5年7月：徳島大学歯学部附属病院看護部 看護師長	

看護学部教授紹介

精神医学 元村 直靖 教授

このたび、平成22年4月1日付で大阪医科大学看護学部にて赴任いたしました。

私は、昭和55年に大阪医科大学を卒業後、神経精神医学教室に入局し、精神医学を専攻してまいりました。また、平成3年より、大阪教育大学に転出してからは、主に養護教諭や高校看護教員の養成に携わってまいりました。同時に、社会人のための夜間大学院の担当となり、現場の看護師や看護教員である大学院生の研究指導や教育に従事する機会に恵まれました。このような経験が、大阪医科大学の看護学部における研究・教育に資することを念願しております。



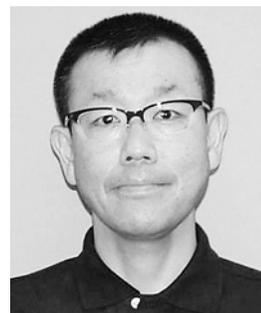
【略歴】

昭和55年3月 大阪医科大学卒業
昭和55年6月 大阪医科大学附属病院臨床研修医(神経精神科)
昭和61年4月 大阪医科大学助手(神経精神医学教室)
平成2年7月 大阪医科大学講師(神経精神医学教室)
平成3年4月 大阪教育大学助教授(健康科学講座、大学院健康科学専攻)
平成9年4月 大阪教育大学教授(健康科学講座、大学院健康科学専攻)
平成22年4月 大阪医科大学教授(看護学部 看護学科)
平成2年6月～平成3年9月 アーヘン工科大学神経科 Alexander von Humboldt財団給費研究員
平成11年11月～平成12年1月 JICA短期専門家 タイ文部省派遣
平成12年10月～平成12年11月 ハーバート大学医学部客員教授(文部科学省在外研究員 社会医学講座)現在に至る



生化学 矢野 貴人 教授

このたび、大阪医科大学看護学部の教授に就任いたしました。生化学を中心に、4科目ほどの講義を担当することになっています。これまでの20年間、研究室での実験に没頭してきました。現在、初めての看護学部、慣れない科目の講義と、試行錯誤しながら第1期生の学生と日々接しています。看護教育というものも、ほとんど耳学問によってではありますが、勉強しつつあります。「看護学部が乱立するなか、大阪医科大学看護学部をいかに特色づけ、その立場を確固たるものにするか」について、多くの教職員がそれぞれの立場でさまざまに考え努力されているのを、就任前後より拝見してきました。私自身にとっても、今回の就任は、慣れ親しんだ研究者生活とは異なる、新しい職務への挑戦であります。その機会が得られたことに感謝しつつ、看護学部の発展に微力ながら貢献できるよう最善を尽くしてまいりたいと思います。



【略歴】

昭和62年 大阪医科大学医学部 卒業
昭和62年 大阪医科大学大学院医学研究科(専攻医化学)入学
平成3年 大阪医科大学大学院医学研究科(専攻医化学)修了
平成3年 大阪医科大学 医化学教室 助手
平成5～7年 カリフォルニア大学バークレー校に留学
平成7年 大阪医科大学 医化学教室 講師
平成17年 大阪医科大学 医化学教室 助教授
(後に、生化学教室、准教授へと各々名称変更)
平成22年 大阪医科大学 看護学部 教授

新任教授(内科学Ⅲ)紹介

この度、平成22年4月16日付けで、内科学講座内科学Ⅲ教室を担当させていただくことになりました。初代の鷹津教授から、河村教授、北浦教授について4代目にあたり、伝統ある教室を主宰させていただくこととなり、その重責を痛感しているところです。また、同日、大阪医科大学附属病院 循環器内科の科長も拝命しております。

私は、昭和61年に東京大学医学部医学科を卒業したのち、同大学病院にて臨床研修を行いました。東京都三井記念病院などにおいて循環器内科の臨床について学びました。また、東京大学医学部脈管生理学講座において基礎研究のトレーニングを積み、その後、アメリカ・エモリー大学の循環器部門に留学し、基礎研究についてさらに研鑽を積む機会を得ております。帰国後は東京大学医学部、および附属病院のスタッフとして、臨床・教育・研究に従事してきました。

現代は、高齢化社会を迎え、動脈硬化性疾患が増加していることは周知のとおりです。一方、循環器領域としては、心不全、不整脈や刺激伝導障害に関連する疾患の増加も大きな問題となってきたことが認識されており、循環器医の責務もますます重いものになってきております。確かに、この20～30年で循環器診療は、めざましい進歩をとげておりますが、それゆえ、標準的なレベルから先進的なレベルにまたがるクオリティで、診断や治療を皆様に提供することは、ますます容易なことではなくなっているように感じます。スタッフ一同、知識、技術について、常に新しいものを吸収し、よりよい医療を提供することで地域住民の皆様に信頼していただける医療を提供するべく、日々、精進を重ねて参りたいと考えております。また、臨床研究を含めた基礎研究に積極的に参加すること、診療行為の背景にある科学的な根拠の追求という意味でも、個々のスタッフのロジカルシンキングのトレーニングという観点からも重要なであると考えております。こちらについても推進していきたいと考えております。

まだまだ経験が浅く未熟な部分も多々ありますが、伝統のある教室と本学の更なる発展のために微力ながら尽力する所存でございますので、ご指導、ご鞭撻いただきますよう宜しくお願い申し上げます。



内科学講座 内科学Ⅲ
石坂 信和 教授

昭和37年1月生

昭和61年3月：東京大医学部医学科卒業

昭和61年6月：東京大学医学部附属病院内科にて研修

昭和62年12月：東京大学医学部附属病院分院内科にて研修

平成元年6月：三井記念病院循環器内科医員

平成4年6月：東京大学医学部脈管病態生理学研究員

平成6年4月：東京大学医学部附属病院第一内科助手

平成7年2月：米国アトランタエモリー大学循環器科に留学

平成12年4月：東京大学医学部附属病院循環器内科助手

平成17年12月：東京大学医学部附属病院循環器内科特任講師

平成20年7月：東京大学医学部附属病院循環器内科講師

平成22年4月：大阪医科大学内科学講座教授

理事長所信表明

学校法人大阪医科大学の今後の方向について ～ 理事長就任にあたり所信表明 ～

理事長 植木 實

日時：平成22年6月23日（水）
場所：臨床第一・第二講堂

理事長方針（概要）

就任に際しての考え方

- 1 建学の精神と3つのビジョンの堅持と具現化**
 - ▶ 建学の精神…人間性豊かな良質の医療人の育成
 - ▶ 3つのビジョン…最優の医科大学を目指す
患者本位の開かれた医療機関となる
地域社会との共生を図る
- 2 財政基盤の強化**
 - ▶ あらゆる手段を講じて財政の磐石化を図る
 - ▶ 次期中長期経営計画の最優先課題に盛り込む
- 3 学内各部門の協力・融和体制の創生**
 - ▶ この構造の創生を本学が目指す将来のガバナンスの基本とする
 - ▶ 十分な広報活動を行って全学的に透明性を高め、意思疎通を図る
 - ① 理事会議事内容等を正確に各部門に伝え、十分な広報を行う
 - ② 各部門の会議内容を理事会に毎回報告する
 - ③ 理事長・学長・病院長等が定期的に、また、理事間で意見交換する
 - ④ 事務系には事務局において纏まりを良くする
 - ⑤ 全学集会を開くなどして理事長の考えを伝える



経営イノベーションの3つの柱

- 1 マネジメント・サイクルの徹底・完遂**
 - ▶ PDCAに基づいたマネジメント・サイクルの徹底
 - ▶ 「過去延長・成行型」の運用から「ビジョン追求・戦略型」の経営へ
- 2 経営の可視化**
 - ▶ 経営を左右する客観的な財務状況
 - ▶ 主体となる教職員の意識などの現状把握
- 3 コンプライアンス体制の充実**
 - ▶ 学内外に対しルールを守って業務を遂行する

基本方向の重点施策

- 1 公平性・透明性の高い経営体制の確立**
- 2 財政基盤の安定化**
 - [短期]
 - ▶ アウトソーシングを含めた人件費の適正化
 - ▶ 多様な経営費用の見直し

▶物流などでの材料費の適正化

[中長期] ※以下の項目はシミュレーションを繰り返しながら行う

▶法人収支の見直し

▶健全化計画の策定

▶健全化計画に基づく設備投資の選定

③ 大学ブランド力の向上

④ 組織・人事の適正化



学生諸氏におかれましては日頃の学習に励んで頂き、教職員の皆さんにはそれぞれの専門的分野での活躍に感謝申し上げます。

さて、ご承知のように世界情勢は日々目まぐるしく変動しており、当然のことながら教育・研究・医療の分野においても例外ではありません。パーマネントイノベーションという言葉が生まれているように、社会からは絶えず組織の変革が求められ、本学においても恒常的な運営・経営のイノベーションが必要です。

本日は、大学イノベーションの一環として、理事長として初めて、学生諸氏や教職員の皆さんに大学の諸問題を含め直接お話しいたします。今回は第1回目ですので「大学の歴史と目指すもの」、「抱負」、「今後の大学経営」等についてお話しし、最後にメッセージを贈ります。

まず、学生諸氏、若手の教職員、途中入職の方々を中心に、改めて正しく知って頂きたい「本学の歴史」、「建学の精神」、「地域社会への役割」、「大学に必要な教育環境整備」について触れます。

本学は昭和2年（1927年）に設立され、創立83年の歴史ある大学になりました。設立の背景には、当時、一般に都市部に医師が集中し、地方の医師が不足、加えて海外進出した多くの開拓団の医師不足はさらに深刻な状態にありました。建学の精神は『国際的視野を持つ人間性豊かな良質の医療人の育成』であり、現在の本法人は「国際的視野に立った教育・研究および良質な医療の実践をとおして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成する」を理念としています。設立当時から現在も変わらぬ大学のミッションと言うべきものです。

次に、本学の歴史を知る上で「学歌」と「校旗」の存在は非常に重要です。学歌の内容を私なりに解釈しますと、北摂の山々と、松の緑に包まれた三島原に立つ学舎の情景を写し、医学を学ぶ学徒の使命感を鼓舞しながら、海外への雄飛をも詠い込んでいます。

校旗には、人間性豊かな日本の精神を持つ良医を育成することを校是とし、卒業生の海外雄飛を期待する意味が込められています。校旗の色は、上段の赤と桜花は日本の心を、中段の黄色は東亜の大陸を指し、下段の青緑色はブラジルを中心としてアメリカ大陸へ渡る大洋の海を示すものです。

学歌、校旗の意味する所は、いつの時代にもマッチしています。学歌と校旗を十分にご理解頂き、学歌はクラブ活動などで機会ある毎に歌って頂きたいと思います。

創立時の学舎群は、W.M.ヴォーリズの建築です。現在は登録有形文化財に登録された別館（歴史資料館）を残すのみとなりました。

一方、病院の病床数をみると、昭和5年の病院設立時は120床、戦時中・戦後は200床余で、この頃、三島病院と呼ばれていました。昭和31年頃から病床数が急増し、病院1号館から6号館が完成した昭和52年には1,000床を超えました。現在では入院日数の短縮により900床余です。

ところで、大学の創立当時、教授陣の多くが他学の出身者でしたが、約15年前から本学出身者が過半数を占めるようになりました。また、法人の多くの理事及び理事長も10年余前から本学出身者になり、これからが大阪医科大学は独自性を発揮し、さらなる発展を目指す時期であることをお互いに自覚せねばなりません。

理事長所信表明

さて、現在の本法人の組織を申し上げますと、医科大学には医学部、そして新設の看護学部、大学院、図書館、附属病院、及び各種センターが所属します。その他には事務部門、LDセンター、看護専門学校、歴史資料館、昨年開設した健康科学クリニックなどの多様な組織を有しています。

中でも、昨年6月に立ち上げました「健康科学クリニック」は、ご承知のように附属病院では取り扱っていない予防医学の実践の場として「未病の発見・健康寿命の延伸」を掲げ、種々の健診を中心に診療しています。実績としては、昨年度3月末までの9ヶ月間に健診者数約7,000名、診療者数約3,500名で、癌の方が36名の他、メタボリックや循環器異常などの要精検・治療者数は約2,000名におよび、本学附属病院及び近隣の病院に多くの患者様を紹介しています。今年は企業からの健診申し込みが増加し、明るい経営見通しです。また、西日本で初めてとなる医科大学直轄の予防医学を実践する健診施設として医療界から注目されており、近々、医学部、看護学部の教育実習施設としての役割を担います。本施設は交通至便なJR高槻駅に直結していることで、建物自体が大阪医科大学の広告塔の役目も果たしています。

今年度、本学の永年の夢と希望であり、高機能医療を行う上で必要な「看護学部」が設立されました。本学の厳しい財務状況の中で設置基準をクリアしながら、文部科学省の指導の下に留意事項なく認可され、第一期生を迎えることができました。競争倍率も8～9倍と高く、偏差値も関西の私学ではトップでした。本学の利便性の高さや教育環境の良さ、特定機能病院である附属病院を実習場所とすることなどが受験生に好感を呼んだものと思います。看護学部が創設されたことで、本学は単科医科大学から複数学部を持つ医科系総合大学へと変貌し、さらに着実な発展が期待できます。

法人及び大学は、常に外部の第三者評価が大切です。まず、朝日新聞から毎年出版されている『大学ランキング』では、本学の教育環境・整備の良さが評価され、永年「AAA」を頂いています。学生一人当たりの校地面積や教員数、図書館や自習室の充実度など80数項目にわたって調査された結果、高く評価されています。

さらに、大学基準協会からは適合認定書の交付を受け、財務の信用格付はR&I社から「A(+)」の評価を頂いています。「病院機能評価」の認定も受けており、『週刊ダイヤモンド』の特集「ベスト病院ランキング」では第10位に入っています。また、物流センターや中央検査部ではISO規格の認証を取得しています。このような第三者機関による評価は、本学の社会的評価を高め、維持する上で極めて大切な事項です。

広報・入試センター（PRAC）の活発な活動もあって医学部入学志願者数は2,400名余と、ここ5年間で約2倍に増加し、偏差値も東大・京大医学部に次ぐ第2グループに上昇しています。入試方法の多様化と試験会場の増加を推進すると共に、大阪医科大学を効果的に広報する「ブランディング」の成果が顕著に現れていると言えます。医学部、看護学部共に良質の学生を求めることが、将来の本学の発展のために絶対に欠かせない条件です。

第一次中長期経営計画等に基づいた将来計画では、2009年までに病院7号館、新講義実習棟、看護学校校舎の建築や歴史資料館の整備が行われ、昨年から今年にかけて健康科学クリニックと看護学部が開設されました。また、大学院の大きな改革も行われています。今後着手するハード面の整備予定として、2020年頃を目途に病院8号館、9号館、第2総合研究棟など大学全体の見地からの新設・整備を進めていかねばなりません。

次に、本学が目指す医療人育成についてです。建学の精神（ミッション）に基づいていますが、「国際医学・医療センスを備え、臨床力のある医療人」を養成することです。即ち、国際性・人間性を備えながら、医師であれば患者様の病気を治すことができ、また、看護師であれば先端医療にも関わり、難治性疾患の看護にも対応できる、高い能力を備えたそれぞれの医療人を育成することを意味します。育成のための行動目標として、早期体験実習や1年生から人体の構造や機能について学習し、一方では教養科目の充実により人間性のある医師へのモチベーションを高めていきます。第3・4学年では問題解

決型能力を身に付け、コミュニケーション能力を高め、クリニカルクラークシップで臨床力を磨きます。

その方策は、自学自習室及び図書館の完備とメディカルトレーニングサポートセンターの充実にあります。また、進級・卒業試験判定の適正化を図って各年次の学生能力を厳正に判定することも大切です。その他、大学の奨学制度や田中国際交流基金を利用して、学術交流を結んでいる海外約10校の医科大学・医学部への積極的な留学交流を志して頂きたいと思います。

以上、教育環境の充実の本学の校風である学生の自主性を尊ぶことへの具現化を図っており、新講義実習棟の完備、図書館の整備は、他学の追従を許さない充実振りであります。

それでは、ここで私の就任に際しての抱負を述べます。これらは大きく分けて①「建学の精神と3つのビジョンの堅持と具現化」、②「財政基盤の強化」、そして③「学内各部門の協力・融和体制の創生」の3項目が挙げられます。

最初の①「建学の精神と3つのビジョンの堅持と具現化」は、過去10年間遂行された中期5ヵ年経営計画及び今後進められる次期経営計画の基本となるものです。建学の精神は「人間性豊かな良質の医療人の育成」であり、それに基づき策定された3つのビジョン（目標）は「最優の医科大学を目指す」、「患者本位の開かれた医療機関となる」、「地域社会との共生を図る」であり、これらのビジョンを堅持し、具現化していかねばなりません。

②「財政基盤の強化」に関してですが、ご承知のように本学も医療費の長期抑制と国庫補助金の削減、そして支出の50%以上を占める実質人件費などの要因で、財政が不安定化しています。本学の財政が安定しないと、教育・研究・診療などを充実させる投資ができません。本法人としては、今、あらゆる手段を講じて財政の磐石化を図らねばなりません。次期中長期経営計画の最優先課題に盛り込み強化を図りますが、明るい材料もありますので、教職員の皆様にはこの最大の懸案をご理解頂き、ご協力をお願いいたします。

③「学内各部門の協力・融和体制の創生」であります。本学には教育・研究・診療を行う専門部門と管理・運用経営する法人部門があります。この2つの主体はそれぞれ多くの分野から成り立ちますが、この両軸はお互いに効果的に影響を与え、協力・融和し合うことが正しい姿です。この構造の創生を、本学が目指す将来のガバナンスの基本とするものです。この意味は、理事会の議事内容等を正確に各部門に伝え、逆に各部門の会議内容を毎回報告する、また、理事長・学長・病院長などが定期的に、また、理事間でもお互いによく意見交換をする、事務系には事務局を置いて纏まりを良くする、全学集会を開くなどして私の考えを伝えるなど、十分な広報を行って全学的に透明性を高め、意思疎通を図ることが、大学のガバナンスを行う上で基本的かつ極めて重要であります。

次に、今後の大学経営については、本学は絶えざるイノベーションで臨んでいく必要があります。我々は今まで『大学運営』と言う言葉を使ってきましたが、3つのビジョンを達成・具現化するには『大学経営』でなければなりません。全てのマネジメントにはPDCAサイクルが必要です。『運営』はDoのみで十分なPlanもなく、CheckとActionはないと言われていました。即ち、評価も修正もない、一種の“やりっぱなし”の状態が『運営』と言うことになり、やはりこれからの大学にはPDCAの計画、実施管理、評価、修正のある『経営』が必要です。

強い大学経営を実現するためには、経営イノベーションの3つの柱

- ① マネジメント・サイクルの徹底・完遂
- ② 経営の可視化
- ③ コンプライアンス体制の充実

について考えなければなりません。従来の“過去延長・成行型”から“ビジョン追求戦略型”の経営に大きく、しかも迅速に舵取りする必要があります。

第1の柱の「マネジメント・サイクルの徹底・完遂」ですが、大学経営はこれからの外部・内部環境

理事長所信表明

の激変によりさらに厳しくなります。今後は限られた資源（人・物・金・情報）のより効果的、効率的な配分が求められます。従ってPDCAに基づいたマネジメント・サイクルによる管理を徹底し、「過去延長・成行型」の運用経営から「ビジョン追求・戦略型」の経営に変えていくためには、全ての基盤となる経営計画の再整備が不可欠です。

第2の柱「経営の可視化」については、今後の大学でのイノベーションやマネジメント変革を全学的に進める上で、現状の本学の実態を共通認識することが何よりも大切です。この現状認識がずれると、将来に向けた対策の期待効果が異なり、学内ベクトルや改革推進の歩調が合わなくなってきました。特に、経営を左右する客観的な財務状況及びその主体となる教職員の意識などの現状把握は必ず必要になると思われます。

第3の柱「コンプライアンス体制の充実」に関しては、社会的には一法人として、学内外に対しルールに従って業務を遂行することは最低限の条件です。問題の予防や対策を含め、コンプライアンス体制を整えると同時に、それが十分に機能するようにマネジメントのあり方を検討する必要があります。このことは、大学及び病院の社会的位置付けから見ても当然徹底されるべき要素であり、学内外の信用、ブランドの維持・向上のためにも極めて重要な事項です。

以上から、本学の基本方向について纏めますと、重点施策として次の4点を推進します。

- (1) 公正性、透明性の高い経営体制の確立
- (2) 財政基盤の安定化
- (3) 大学ブランド力の向上
- (4) 組織・人事の適正化

ここで、最重要項目である(2)の財政基盤の安定化について触れます。これには、中長期のミッションと短期的に着手できる施策があります。短期的には支出の高い割合を占めるアウトソーシングを含めた人件費の適正化、多様な経営経費の見直し、物流などでの材料費の適正化などが挙げられます。中長期的には法人収支の中長期的見直し、健全化計画の策定、健全化計画に基づく設備投資の選定等があります。これらは投資する物件毎へのシミュレーションを何回も繰り返し、慎重に進めて行くことが肝要と考えます。

最後に、理事長として、私から皆さんにメッセージを贈ります。

元プロ野球の長嶋選手の言葉に倣って言うと、“大阪医科大学は永遠に不滅であります”。

「皆さんと一緒に、本学をミッションとビジョンに基づいた個性溢れる大学に育てようではありませんか！」特色があれば多少歪な面があっても良いと思います。

学生諸君には、「器の大きな医療人になれ！」と期待いたします。これは即ち、医学部学生諸君には「器の大きな医師になれ！」であり、看護学部の学生諸氏には「器の大きな看護師になれ！」であります。この“器”の意味には、人間性、技術力、研究力、国際性など多くの面を指しています。

教職員の皆さんへは、「勤めて良かったと思える最優の大学を共に創って参りましょう！」と申し上げます。

私も一生懸命努力いたします。どうぞ皆さんのご努力とご協力を重ねてお願い申し上げまして、今回の就任に際しての所信表明といたします。



平成22年度 永年勤続表彰

日 時： 平成22年6月2日（水）10時から～
35年勤続表彰 8名
20年勤続表彰 26名
場 所： 別館3階 大学院多目的講義室

勤続35年

桑原美代子（医事課・事務員）
小林 悦子（会計課・主任）
島田 豊（栄養課・主任）
高淵 雅廣（研究機構・講師（准））

田中 孝生（教育機構・准教授）
辻 久志（中央放射線部・主事）
松本 英和（学務部付・事務員）
山中 正道（総務部付・主任）

（50音順）



勤続35年表彰者

勤続35年表彰を受けて

中央放射線部 主事 辻 久志

この度、7名の方と共に勤続35年の表彰を受けました。同期の方がずいぶん辞められて寂しい気持ちがあります。調べてみると勤続20年表彰の時は35名だったので、この15年の間に4分の3以上の方が辞められたことになります。

私は、高槻で生まれ、2歳から高校2年まで島本町で育ち、病院といえば大阪医大という感じでした。その大阪医大に昭和50年放射線技師として就職しました。

大阪医大で働き出して驚いたのは、私が小学2年に目の病気で入院した時の婦長さんだった大塚さん、主任だった加藤さんと一緒に働くことになったことです。それまで、女性が長年同じ職場で働き続けるということが想像できなかったからです。共に、昭和61年と平成元年まで働かれ退職されました。

永年勤続表彰

就職した次の年に、目の病気が悪くなり、眼科の内海医師に眼筋の筋電図とテンシロンテストをしてもらい、発病から17年経って自分の病気が「重症筋無力症」であることが分かりました。検査の目的を知って検査することの大切さを、自分の病気を通して痛感しました。

平成4年夏再度目の病気が悪くなり、プレドニンによる治療を始めましたが、下痢、発汗、不眠が続き平成5年3月に入院。プレドニンの大量療法と胸腺摘出手術を受けました。外来では、主治医と話す時間がほとんどありませんでしたが、入院してからはゆっくり話をする事ができ、不眠の原因がプレドニンの服用で起きたことも分かり、睡眠薬を飲むことで、体調もどんどん良くなりました。また、胸腺摘出手術を受けたあとの、身体がキツイ時に、看護師さんや看護補助員さんにずいぶん助けてもらいました。

自分の病気を通して、多くの方と知り合い、助けられ生きてきたと思います。定年退職まであと6年9カ月、役に立てる間は働き続けたいと思っています。

勤続20年

- | | |
|------------------------|----------------------|
| 井口 健 (中央検査部・技師長補佐) | 田代マツコ (看護学部看護学科・助教) |
| 井地 陽子 (中央検査部・臨床検査技師) | 田村 元子 (病院看護部・看護師) |
| 伊藤 文夫 (栄養課・主任) | 樋田美智子 (病院看護部・看護師主任) |
| 上杉 康夫 (放射線医学・講師) | 中越 智子 (病院看護部・看護師主任) |
| 太田 敏子 (中央検査部・臨床検査技師) | 橋口 範弘 (口腔外科学・講師) |
| 岡田 貴子 (庶務課・主事) | 日栄 美輪 (病院看護部・看護師) |
| 沖野真理子 (中央検査部・臨床検査技師) | 東尾 智美 (病院看護部・看護師長代理) |
| 貝路 由紀 (研究協力課・事務員) | 福村 勝典 (中央放射線部・主任) |
| 久川多恵子 (薬理学・事務員) | 前川 孝 (栄養課・主任) |
| 小谷 英子 (病院看護部・看護師主任) | 松田 久美 (企画課・主任) |
| 小林 洋樹 (総務課・課長代理) | 松本 加奈 (病院看護部・看護師長) |
| 境 晶子 (化学・生体分子学・講師 (准)) | 三輪 浩司 (病院看護部・主事) |
| 杉村 成一 (薬剤課・薬剤師) | 渡邊 房男 (化学・生体分子学・講師) |

(50音順)



勤続20年表彰者

永年勤続表彰を受けて

病院看護部 看護師長 松本 加奈

この度、大学・病院の25名の方々と共に勤続20年の表彰を受けました。その中には同窓生3名も含まれています。私は、本学附属看護専門学校を卒業し、平成2年に入職しました。看護学生の頃は、今は無き清泉寮で舎監さん、寮母さんにお世話になりながら、仲間と共に寮生活を過ごしました。1クール毎の病院実習が終わる度に、打ち上げと称してグループで食事会を計画し、ストレス発散していたことを懐かしく思い出します。

入職して胸部外科病棟に配属され、入職8年目に内科病棟へ異動、その7年後に縁あって再び胸部外科病棟へ異動し、看護師長の任を拝命し現在に至ります。外科と内科を経験し、個々の患者さまと向き合い、相手を尊重した個別性のある看護の重要性を学びました。そして更に、看護学生や後輩指導を通して、自己の看護観を深め、ひとりの人としても成長させていただき、今の自分が存在しているのだと思います。それは、一重に今まで出会った患者さまとその御家族はもちろん、諸先輩方、同僚、後輩、諸先生方などすべての方々のお陰であると、改めて実感しています。

医療・看護を取り巻く厳しい状況のなか、看護部では看護師配置基準「7：1看護」を早期に取得し、安全で質の高い看護の提供に努めています。今でも年に数回、同窓生と集まることがあります。結婚による転居などの理由で退職し、他院で就職している仲間が口を揃えて言うことは、「医大はよかった」ということです。実際、再就職している人もいます。私自身も昨年父親が病に倒れて以来、他病院に家族として訪れることが多くなり、地域病院の看護の現状を目の当たりにする度、自己の看護を見つめ直すと共に恵まれた職場環境のなかで働くことができることに日々感謝しています。それと同時に諸先輩方が築いてこられた当院の「患者さま中心の看護」を誇りに思い、継承していきたいと強く思います。

社会のニーズに応える質の高い医療・看護が提供できるよう、これからも自己研鑽に努めて参りたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



受賞等について

5th JAPAN-ASEAN Conference on Men's Health & Aging 2010

BEST PODIUM PRESENTATION

解剖学教室 助教 ナビル・AS・イード先生

2010年7月8日～11日に、マレーシアのコタキナバルで開催されました男性の健康とエイジングに関する第5回日本ーアジア・メンズヘルス・エイジングカンファレンスにてBESET PODIUM PRESENTATION（ベスト・プレゼンテーション賞）を受賞されました。



演題：“Involvement of inducible Nitric Oxide Synthase in DNA Fragmentation in Various Testicular Germ Cells of Ethano-treated Rats.

著者：Nabil Eid, Yuko Ito, Yoshinori Otsuki

受賞等について 叙勲について

受賞等について

大阪府看護事業功労者表彰受賞
病院看護部 西山 裕子 部長代理

平成22年5月14日（金）、長年にわたり、看護業務に精励し保健医療の向上に大きな功績のあった方々に対する表彰式が、ナーシングアート大阪（大阪府看護協会）で行われました。



叙勲について

平成22年「春の叙勲」で、永年の教育研究の功勞に対し、岡島邦雄名誉教授（一般・消化器外科学）が瑞宝小綬章、岩崎尚彦名誉教授（生物学）が瑞宝中綬章を受章されました。



岡島 邦雄 名誉教授

岡山大学医学部医学科卒業
岡山大学医学部附属病院助手
岡山大学医学部附属病院講師
岡山大学医学部助教授
大阪医科大学教授（一般・消化器外科）
大阪医科大学名誉教授
在職中に、大阪医科大学附属病院長、副院長、中央手術部長を務める。



岩崎 尚彦 名誉教授

東京都立大学理学部生物学科卒業
東京都立大学大学院理学研究科博士課程修了
大阪医科大学講師（生物学）
大阪医科大学助教授（生物学）
大阪医科大学教授（生物学）
大阪医科大学名誉教授

平成22年度 第I回 学位記授与式

日 時： 平成22年7月30日（金）午後3時～
 場 所： 別館1階講堂 及び 3階大学院多目的講義室
 大学院医学研究科修了者（甲）…………… 5名
 論文提出者（乙）…………… 3名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第863号	清水 徹之介	HLA-B62 as a possible ligand for the human homologue of mouse macrophage MHC receptor 2 (MMR2) on monocytes (単球上のマウスマクロファージMHC受容体2のヒトホモログの1リガンドとしてのHLA-B62)
甲第864号	葉山 芳貴	Optimum preservation for autologous cultured dermal substitutes (自家培養真皮における至適保存条件の検討)
甲第865号	藤井 加奈子	Preliminary study of a challenge test to the patients with Japanese cedar pollinosis using an environmental exposure unit (曝露室におけるスギ花粉症患者のスギ花粉曝露による症状誘発に係わる予備的検討)
甲第866号	山下 太郎	Asialoerythropoietin attenuates neuronal cell death in the hippocampal CA1 region after transient forebrain ischemia in a gerbil model (アジアロエリスロポイエチンによるスナネズミ一過性前脳虚血モデルに対する神経保護効果)
甲第867号	依田 有紀子	Prevention by lansoprazole, a proton pump inhibitor, of indomethacin-induced small intestinal ulceration in rats through induction of heme oxygenase-1 (ラットインドメタシン起因性小腸粘膜傷害に対するヘムオキシゲナーゼ-1を介したプロトンポンプ阻害剤ランソプラゾールの予防効果)

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第1079号	アブデラル オサマ Abdel-aal Usama	Evaluation of portal hypertensive enteropathy by scoring with capsule endoscopy: is transient elastography of clinical impact? (カプセル内視鏡を用いた門脈圧亢進症性小腸症の評価：トランジェントエラストグラフィーは臨床的に重要か?)
乙第1080号	渚 紀子	Analysis of biological apatite orientation in rat mandibles (ラット下顎骨における生体アパタイト結晶配向性の骨質解析)
乙第1081号	佐藤 孝樹	Effect of Hypoxia on Susceptibility of RGC-5 Cells to Nitric Oxide (一酸化窒素によるRGC-5細胞の感受性に対する低酸素の影響)

平成21年度決算について

平成21年度決算は本年5月29日開催の理事会において承認され、同日開催の評議員会において報告されました。

以下概要を説明します。

I 資金収支決算について

<資金収入>

(1) 学生生徒等納付金収入

前年度対比で107百万円の増収となりました。医学部入学定員の増加によるものです。

(2) 手数料収入

前年度対比で22百万円増加しました。看護学部の開設により入学検定料が増加した為です。

(3) 寄付金収入

前年度対比で一般寄付金が45百万円増加しましたが、特別寄付金が227百万円減少したため大幅に減少しました。

(4) 補助金収入

前年度対比で303百万円の増収となりました。経常費補助金が155百万円減少しましたが、他補助金の収入が大きく増加しました。

(5) 資産運用収入

前年度対比で35百万円の減収となりました。世界不況により運用環境が良くない状況で、受取利息が減少しました。寄宿舎利用収入も減少しました。

(6) 資産売却収入

前年度対比で169百万円減少しました。債券の満期償還が無かったことによります。

(7) 事業収入

前年度対比で24百万円増加しました。受託事業収入が増加したことによるものです。

(8) 医療収入

医療収入は前年度対比で340百万円増加しました。1日あたりの患者数は減少しましたが、単価が伸長したこと、昨年6月に健康科学クリニックを開設したことが寄与しています。

(9) 雑収入

前年度対比で83百万円減少しました。主として退職金財団交付金収入が大きく減少しました。

(10) 借入金等収入

前年度対比で2,300百万円減少しました。運転資金の借換えを行わなかったため減少しました。

(11) 前受金収入

前年度対比で195百万円増加しました。看護学部の設置により前受学納金が増加した為です。

(12) その他の収入

前年度対比で1,549百万円減少しました。前期末未収入金収入が2,291百万円減少した為です。

(13) 資金収入調達勘定

前年度対比で4,065百万円増加しました。期末未収入金が2,809百万円、前期末前受金が1,256百万円増加したことによります。

＜資金支出＞

(1) 人件費支出

前年度対比で教員人件費が132百万円、職員人件費が457百万円増加しました。

(2) 教育研究費支出

前年度対比341百万円増加しました。委託費が106百万円奨学助成費が68百万円消耗品費が45百万円増加しました。

(3) 管理経費支出

前年度対比で503百万円増加しました。補助金返還支出214百万円、建物撤去費が153百万円、委託費が136百万円増加しました。

(4) 借入金等利息支出

前年度対比で29百万円減少しました。借入金の約定完済が原因となっています。

(5) 借入金返済支出

前年度対比で3,337百万円減少しました。借入金の借換えが発生しなかったため、大幅に減少しました。

(6) 施設関係支出

前年度対比で543百万円増加しました。看護学部研究棟の建設及び健康科学クリニックの建物の整備です。

(7) 設備関係支出

前年度対比教育研究機器備品が840百万円、ソフトウェア支出が98百万円増加しました。

(8) 資産運用支出

設備拡充資金引当預金を1,450百万円継続したことにより、増加しました。

(9) その他の支出

前年度対比前期末未払金支出が488百万円減少しました。

(10) 資金支出調整勘定

前年度対比期末未払い金が1,169百万円増加しました。

(11) 次年度繰越支払資金

前年度対比1,777百万円減少しました。

II 消費収支決算について

帰属収支差額は▲1,215百万円となり、前年度対比で1,263百万円悪化しました。

III 貸借対照表

資産総額は1,369百万円増加しました。固定資産のうち教育研究用機器備品が583百万円増加しました。現金預金が前年度対比大幅減少し、未収入金額が増加した原因は、前年度に診療報酬債権を売却したのに対し今年度は売却をしていないことが主因です。固定負債の増加はリース取引の会計方法の変更によるものです。

決 算

単位：百万円

平成21年度資金収支決算（前年度決算対比）						
勘定科目		法人全体				
		21年度決算額	構成比率%	20年度決算額	構成比率%	増減
収 入	学生生徒等納付金収入	3,531	9.5	3,424	8.4	107
	手数料収入	177	0.5	155	0.4	22
	寄付金収入	529	1.4	711	1.7	-182
	補助金収入	1,834	4.9	1,531	3.7	303
	資産運用収入	216	0.6	251	0.6	-35
	資産売却収入	32	0.1	201	0.5	-169
	事業収入	305	0.8	281	0.7	24
	医療収入	21,461	57.7	21,121	51.7	340
	入院収入	15,525	41.7	15,532	38.0	-7
	外来収入	5,758	15.5	5,479	13.4	279
	その他の医療収入	259	0.7	110	0.3	149
	保険等査定減	-81	-0.2	0	0.0	-81
	雑収入	337	0.9	420	1.0	-83
	借入金等収入	2,000	5.4	4,300	10.5	-2,300
	前受金収入	2,319	6.2	2,124	5.2	195
	その他の収入	3,133	8.4	4,682	11.5	-1,549
	資金収入調整勘定	-5,717	-15.4	-1,652	-4.0	-4,065
	前年度繰越支払資金	7,062	19.0	3,294	8.1	3,768
	収入の部合計	37,219	100.0	40,843	100.0	-3,624

勘定科目		21年度決算額	構成比率%	20年度決算額	構成比率%	増減
支 出	人件費支出	13,842	37.2	13,212	32.3	630
	教員人件費	4,425	11.9	4,293	10.5	132
	職員人件費	8,707	23.4	8,250	20.2	457
	退職金	571	1.5	542	1.3	29
	教育研究経費支出	11,258	30.2	10,917	26.7	341
	医療材料費	7,063	19.0	6,999	17.1	64
	管理経費支出	2,562	6.9	2,059	5.0	503
	借入金等利息支出	76	0.2	105	0.3	-29
	借入金等返済支出	1,040	2.8	4,377	10.7	-3,337
	施設関係支出	866	2.3	323	0.8	543
	設備関係支出	1,640	4.4	700	1.7	940
	資産運用支出	1,574	4.2	1,066	2.6	508
	その他の支出	2,107	5.7	2,901	7.1	-794
	資金支出調整勘定	-3,031	-8.1	-1,879	-4.6	-1,152
	次年度繰越支払資金	5,285	14.2	7,062	17.3	-1,777
	支出の部合計	37,219	100.0	40,843	100.0	-3,624

平成21年度消費収支決算（前年度決算対比）

勘定科目		法人全体				
		21年度決算額	構成比率	20年度決算額	構成比率	増減
収 入	学生生徒等納付金	3,531	12.4%	3,424	12.1%	107
	手数料	177	0.6%	155	0.5%	22
	寄付金	538	1.9%	720	2.6%	-182
	補助金	1,834	6.5%	1,531	5.4%	303
	資産運用収入	216	0.8%	251	0.9%	-35
	資産売却差額	14	0.0%	0	0.0%	14
	事業収入	305	1.1%	281	1.0%	24
	医療収入	21,461	75.5%	21,121	74.8%	340
	入院収入	15,525	54.6%	15,532	55.0%	-7
	外来収入	5,758	20.3%	5,479	19.4%	279
	その他の医療収入	259	0.9%	110	0.4%	149
	保険等査定減	-81	-0.3%	0	0.0%	-81
	雑収入	337	1.2%	736	2.6%	-399
	帰属収入 【A】	28,413	100.0%	28,219	100.0%	194
	基本金組入額（▲）	-1,108	-3.9%	-1,333	-4.7%	225
	消費収入の部合計 【B】	27,305	96.1%	26,886	95.3%	419

勘定科目		21年度決算額	構成比率	20年度決算額	構成比率	増減
支 出	人件費	13,851	48.7%	13,274	47.0%	577
	教員人件費	4,425	15.6%	4,293	15.2%	132
	職員人件費	8,707	30.6%	8,250	29.2%	457
	退職金	25	0.1%	0	0.0%	25
	退職給与引当金繰入	558	2.0%	605	2.1%	-47
	教育研究経費	12,769	44.9%	12,432	44.1%	337
	医療材料費	7,058	24.8%	6,999	24.8%	59
	管理経費	2,697	9.5%	2,327	8.2%	370
	借入金等利息	76	0.3%	105	0.4%	-29
	資産処分差額	202	0.7%	14	0.0%	188
	徴収不能額	33	0.1%	19	0.1%	14
	消費支出 【C】	29,628	104.3%	28,171	99.8%	1,457

帰属収支差額 【A - C】	-1,215	-4.3%	48	0.2%	-1,263
消費収支差額 【B - C】	-2,323	-8.2%	-1,285	-4.6%	-1,038

決算

単位：百万円

平成21年度貸借対照表（平成22年3月31日現在）

勘定科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	30,216	29,720	496
有形固定資産	25,425	24,858	567
土地	4,509	4,516	-7
建物	13,631	13,756	-125
構築物	236	244	-8
教育研究用機器備品	3,974	3,391	583
その他の機器備品	237	189	48
図書	2,833	2,755	78
車両	5	7	-2
建設仮勘定	0	0	0
その他の固定資産	4,791	4,862	-71
ソフトウェア	90	0	90
電話加入権	3	3	0
保証金	16	31	-15
有価証券	1,311	1,311	0
長期貸付金	584	522	62
退職給与引当特定預金	500	500	0
退職年金引当特定預金	370	445	-75
設備拡充資金引当資産	1,650	1,850	-200
第3号基本金引当資産	267	200	67
流動資産	9,711	8,838	873
現金預金 (a)	5,285	7,062	-1,777
未収入金 (b)	4,280	1,626	2,654
有価証券 (c)	0	7	-7
貯蔵品	69	63	6
前払金	64	76	-12
仮払金	13	4	9
資産の部合計 【A】	39,927	38,558	1,369

勘定科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	13,374	12,405	969
長期借入金	4,808	4,568	240
退職給与引当金	7,639	7,627	12
学校債	210	210	0
長期未払金	717	0	717
流動負債	6,176	4,561	1,615
短期借入金 (d)	1,128	344	784
学校債	12	77	-65
未払金 (e)	2,238	1,788	450
前受金	2,319	2,125	194
預り金 (f)	479	227	252
仮受金	0	0	0
負債の部合計 【B】	19,550	16,966	2,584

純資産【A-B】	20,377	21,592	-1,215
運転資金 (a) + (b) + (c) - (d) - (e) - (f)	5,720	6,336	-616

関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 第3回 三大学医工薬連環科学シンポジウムが開催されました

文部科学省戦略的大学連携支援プログラムの一環として、下記の通りシンポジウムが開催されました。

日 時：平成22年7月3日（土）14：30～17：40

会 場：大阪薬科大学（高槻市奈佐原4-20-1） D棟D302講義室



プログラム：

- 14：30 開会挨拶 三大学医工薬連環科学教育研究機構長 土戸哲明 教授
14：35 挨拶 大阪薬科大学 千熊正彦 学長
14：40 「関西大学における産学官連携の取り組み—大学間連携を中心に—」
関西大学社会連携部産学官連携センター長 西山 豊 教授
15：00 「新しい医療廃液処理法の開発と評価」 大阪医科大学 中野隆史 准教授
15：20 招待講演「岐阜地域における創薬をキーワードとする取組と将来展望」
岐阜大学 連合創薬医療情報研究科長
先端創薬研究センター長 北出幸夫 教授
16：35 招待講演「TWInsにおける真の医理工連携の実践」
早稲田大学先端生命医科学センター長 梅津光生 教授
17：35 閉会挨拶 三大学医工薬連環科学教育研究副機構長 辻坊 裕 教授
17：40 終了

ウェブサイト <http://www.kansai-u.ac.jp/mpes-3U/>



大阪薬科大学 梶本哲也特任教授



関西大学 土戸哲明教授



大阪薬科大学 千熊正彦学長



関西大学 西山豊教授



大阪医科大学 中野隆史准教授



早稲田大学 梅津光生教授

■ハワイ大学春期短期研修派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

毎年3月にハワイ大学医学部では学生向けPBLワークショップが開催され、今年も3月14日から3月20日まで Clinical Reasoningに関して医療面接に重点を置いたプログラムが組まれました。本学とハワイ大学医学部の国際交流協定に基づき、4年生（現5年生）の阿部由督君、古曾部和彦君、吉田江里さん、3年生（現4年生）の楠田梨沙さんの4名を派遣しました。

以下ワークショップに参加した感想を、吉田さんに述べていただきました。

（他の3人の感想文は中山国際医学医療交流センターのホームページに掲載予定です。）



■ハワイ大学ワークショップに参加して

第4学年（現第5学年） 吉田 江里



身体所見中の吉田さん

この度、3月14～20日までハワイ大学主催のワークショップに参加させていただきました。今回のワークショップは、PBLというよりも医療面接に重点を置いたプログラムでした。実際の医療面接を学生同士がお互い患者と医者になって行う Simulated Patient、ハワイ大学の学生に様々なアドバイスをもらえた physical exam skills、また臨床推論の考え方を学ぶ PBL、CRE など本当に充実した一週間でした。

医療面接では、問診だけでなく身体所見を取り、最終的にいくつか考えられる疾患を挙げてどのような検査をするか述べて退室します。必要ならば、そ

の疾患がどのようなもので、なぜ検査をするのかの説明もします。医療面接を何度も行っているうちに、ずいぶん鍛えられました。今の自分の能力では難しい面も多かったのですが、自分の未熟さに気づき5年生で行う臨床実習でのモチベーションがとてもあがりました。この時期にこのワークショップに参加でき非常によかったです。また日本各地の様々な大学から来ていた優秀な学生におおいに刺激を受け、この出会いも自分にとって大切なものになりました。このような貴重な機会を与えてくださったハワイ大学・大阪医科大学の先生方、中山センターの皆様、PA会の方々、関係各位の皆様、本当にありがとうございました。



■タイ・マヒドン大学シリラート病院での選択臨床実習派遣について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学との国際交流協定に基づき、タイ・マヒドン大学附属シリラート（シリラー）病院との間で、学生の院外選択臨床実習を相互に行っていますが、今年は3月29日より4月9日まで5年生（現6年生）の福本真延君、川西彩加さん、前橋伸子さんの3名を派遣しました。

以下に学生諸君のタイでの実習参加について川西さんの感想を述べていただきました。（他の2人の感想文は中山国際医学医療交流センターホームページに掲載予定です。）



■背景を生かしたシリラー病院の医学教育

第5学年（現第6学年） 川西 彩加

この春私はタイのシリラー病院で2週間産婦人科の実習をさせて頂きました。タイの友人達と過ごした2週間はかけがえのない思い出です。彼らと話し、文化や社会的な相違も含め、特に医学生の実習方法について考えさせられる絶好の機会となりました。

今回の病院実習で最も印象的だったことは、国ごとに社会的な背景が異なるため、ふさわしい医療の形、教育の形は異なるということです。具体的に日本の学生との大きな違いは以下のようなものを感じました。

- ① 医学用語、教科書、発表資料は全て英語を用い、国際性を重視していること。
- ② 6年生から、特に夜間勤務において責任を持って働いていること。
- ③ 学生対教師の比では恵まれていないが、レジデント、6年生、5年生の間で屋根瓦式の教育が効果的に行われていること。
- ④ 筆記試験以外に口頭試験もあり、患者さんを想定し鑑別疾患から検査法の選択、治療法の適応など、臨床現場を意識したものであること。



分娩室にて



シリラート病院にて：左から前橋伸子さん、川西彩加さん、福本真延さん

シリラー病院の場合は、施設・設備や教育者の数といった面で大きなデメリットがありますが、学生でも責任を持って働かざるを得ない状況や、教育に協力的な（権利意識の高くないという意味も含めて）患者が多いなどという社会的背景をうまく活用した上で、厳選された講義、100人規模の活発なカンファレンス、後輩を教える環境、工夫された試験など、独自の教育法を展開させていると感じました。また、今回逆に母校の優れている点にも多く気づきました。せっかくの恵まれた環境を生かすために、このシリラー病院から取り入れられることも多いのではないかと

感じます。特に、学年が混じって実習し、質問しあえる環境は非常に重要であると感じました。

最後になりましたが、このような有意義な実習を実現させていただいた、中山センター、PA会の皆様、ずっとお世話になった親切なタイの友人達をはじめ、多くの皆さまに感謝致します。ありがとうございました。

■韓国カソリック大学医学部学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成22年5月24日から6月11日まで韓国カソリック大学医学部6年生学生 Yang JoonHo君、Yang Kyung Yoonさん、Yoon Jiyoungさん、Park Jung Meeさんが、海外選択臨床実習の一環として相互交流協定に基づいて本学附属病院、北摂総合病院、三島救命救急センターなどで研修を受けました。

学生達は研修内容や医学部、看護学部両キャンパスの案内などのオリエンテーションを受けた後、予めリクエストのあった診療科で本学5年生と共に研修を受けました。今回お願いした診療科は形成外科、胸部外科、麻酔科、産婦人科、整形外科、脳神経外科、一般消化器外科、口腔外科、救急医学、リハビリテーション科、第1内科、第2内科、第3内科、精神神経科で、また連携施設は北摂総合病院、三島救命救急センターで実施されました。

韓国の医学教育はわが国と同じく6年制の大学と4年制の医科大学院大学の2種類あり、今回研修を受けた学生は6年次（臨床実習は1年間受講済み）での参加でした。彼らの気風や生活習慣はこれまでの海外からの医学生ともまた異なり、指導していただいた教職員や、実習を共にした本学学生にとっても大変刺激になったと思われます。当初心配した高槻での生活にもスムーズに溶け込めた様子で、終了時の評価は良好であり、今後の両大学相互交流への大きな一歩となりました。



メディカルトレーニングサポートセンターにて花房教授と



学長室にて：前列左からYoon Jiyoungさん、竹中学長、Yang Kyung Yoonさん
後列左からPark Jung Meeさん、河野教授、Yang JoonHoさん

の海外からの医学生ともまた異なり、指導していただいた教職員や、実習を共にした本学学生にとっても大変刺激になったと思われます。当初心配した高槻での生活にもスムーズに溶け込めた様子で、終了時の評価は良好であり、今後の両大学相互交流への大きな一歩となりました。

このたびの研修に際し、ご指導いただいた本学教職員各位、北摂総合病院木野院長、三島救命救急センター秋元所長、スタッフの皆様、また臨床実習のエスコートをしていただいた5年生、国際交流部を中心とした学生諸君に改めて御礼申し上げます。

以下研修生のYang JoonHo君の文章（原文のまま）を紹介します。

大阪医科大学の皆様へ

韓国の留学生の梁と申します。留学生の日本語での感想文は初めてではないかと思いますが、どうでしょうか。

皆様、この三週間大変お世話になりました。本来怯える性格ですし、この留学に志願するのも結構の勇気が必要でしたが、皆さまのお陰で無事に三週間の修練を済めました。誠にありがとうございます。

（中略）

韓国とは言葉も考え方もちょっと違いますが、人を配慮する優しい心だけは両国共通だと思います。各科の先生たちのその心のお陰で修練しながら多く習って、多いことを感じました。患者さんへの態度、親切な説明、そしてちさいところまでの配慮一々が私にはいい亀鑑でした。

学生さんたちにも感謝しなければならないです。いきなり現れた私たちに親切に色々ご案内



看護学部見学

してくださったお陰で最初には緊張状態でしたが以内適応することが出来ました。

特に火祭りと観光に同行してくださった国際交流部の皆さん、ありがとうございます。

色々な方のお陰で大阪での修練は私たちにとって忘れない追憶になりそうです。

私の大学でござるカトリック大学でも大阪医科大学の学生さんたちをうけ入れるようで、もし気がある学生さんならぜひ来てください。必ず歓迎します。(でも現実には来年から奴隷修練医…) また何時かどこかでお会いすると嬉しいです。

韓国カトリック大学 留学生 梁

■ハワイ大学における院外選択臨床実習参加について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では国際交流推進の一環としてハワイ大学医学部との間で交流協定を締結し、学生・教員の相互研修を積極的に行っており、今年6月1日から6月25日までの約1ヶ月間、海外院外選択臨床実習生として6年生の松浦広昂君をハワイ大学の連携病院であるクアキニ病院に派遣しました。

以下に松浦君の研修報告を紹介します。

■ハワイ大学関連病院実習報告書

第6学年 松浦 広昂

はじめに

本学の院外選択臨床実習として平成22年6月の4週間ハワイ大学関連病院の実習に参加させて頂きましたので、ここに報告いたします。1・2・4週目が一般内科の実習、3週目が家庭医療の実習でした。

一般内科 ～チームの一員に当たり前に課せられるプレゼンテーション&カルテ～

一般内科は4チームに分かれており、学生もいずれかのチームに入ります。基本構成は2年目研修医1人・1年目研修医1人と学生1・2名で、指導医も各チームに1人つきます。学生も研修医と一緒にではありますが患者を数人担当します。毎朝7時半までに自分1人で担当患者の回診を済ませ、本物のカルテを書き、チームごとの回診でプレゼンテーションします。その他4チーム全体でのカンファレンス等に参加します。毎日あるのは1時間程度のICU回診だけで、あとは週2回の全体での症例検討会、各チームの指導医との回診、週に1・2回の心電図などの研修医向けレクチャーがありますが、どれも1時間程度です。また昼に製薬会社の自社製品

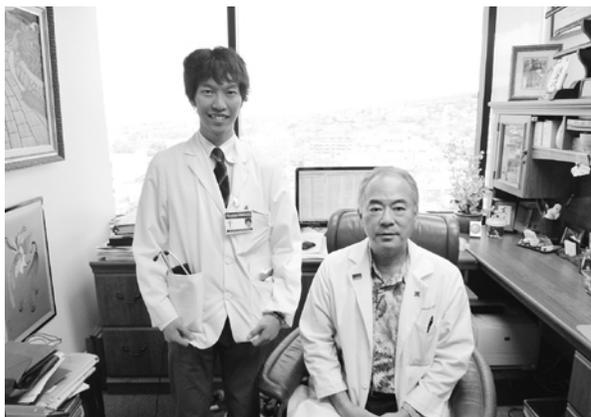


クアキニメディカルセンターのカンファレンスルームにて症例検討会 筆者発表

中山国際医学医療交流センター

の売り込みが昼御飯付きで週に数回あります。終業時刻は3時半で、その後はその日の4チーム全ての患者を当直チームが対応します。当直は4チームが土日も含めて交代します。自分のチームが当直の日には学生も残りますが、遅くても10時までとなっています。基本的には実習時間も長くはないですが、実習中もレクチャーより個人のカルテ記載・プレゼンテーションの準備とそれに続くチーム内フィードバックに充てられる時間が多かったです。

家庭医療 ～病診連携とプロフェッショナルリズム～



渡慶次先生と

家庭医療の1週間は渡慶次先生という日本人の先生のもとでの実習ですが、実習場所はほとんど変わりません。病院のすぐ隣に開業医のクリニックが集まったビルがあります。彼らは個々に病院と契約を結ぶことで自分の患者を病院に入院させることが可能となります。患者の入院が必要になった場合でも、かかりつけ医はクリニックの合間を縫ってその患者を継続して診ることが出来るのです。病診連携が非常に密であることに驚きました。

渡慶次先生の実習はハワイ大でも有名です。先生は大変厳しい方でした。まず1日の始まりは大変早いです。渡慶次先生との6時半からの

回診が始まる前に個人回診しカルテ記載を済ませるには、朝4時半ないしは5時に病院に行かねばなりません。回診後の外来が終わるのはだいたい夕方5時ですが、渡慶次先生の患者の緊急入院があると四六時中いつでも連絡がかかります。さらに、この実習は前後の土日も含めてみっちりありました。朝も早く、24時間on callというプレッシャーは精神的にも大変でしたが、私たちはたった1週間。しかし、先生ご自身も睡眠4時間程度でこれを何十年と続けていらっしゃるのだから驚きです。また、先生は大変熱い方でした。回診後のクリニックでの外来では問診・身体所見・採血まで手とり足とり教えていただきました。手技は見ただけでは覚えられないので実際にやってもらうようにしておっしゃっていました。もちろん、患者を過度に待たせたりはしないよう時間調節されていました。また、実習マニュアルをご自身で作成されているのですが、年に数十ページ更新されており現在500ページを超えています。どこまでも貪欲で、厳しく、熱い先生。これ以上ご紹介出来ないのが残念ですが、この1週間を通じて家庭医延いては全ての医師が持つべきプロフェッショナルリズムを教えてくださいました。本当に感激しました。

病院実習システム ～メジャーに絞った長期間ゆえの深い実習～

一般内科において私はこの1ヶ月間のほとんど全ての時間を1人の患者の理解に費やしました。患者1人でいいから患者入院から退院まで、診断から治療まで、完全に理解することを要求されました。カルテにおいてもプレゼンテーションにおいてもひたすら論理展開を突っ込まれました。この長い過程を経て、全ての評価・計画になんとかは存在せず、はっきりしない症例の中でも確固たる基準をもって判断を下す論理的思考の重要性を教わりました。これは1ヶ月の実習だったからこそ出来たことだと思います。

ハワイ大学の3年生は日本の5年生と違い、1年間の間に一般内科（総合内科）・一般外科・家庭医療・小児科・産婦人科・精神科しか回りません。その代り一つ一つの期間は内科が外来・病棟それぞれ5ヶ月ずつ、後は全て7週間ずつと非常に長いです。残りの科目はどうするかというと、一部は4年生に回

します。国家試験としてのCBTやOSCEも3年の終わりにあり、各学校の卒業試験もないので、4年生は基本的に1年間全て実習に充てられるからです。と言っても、実際は救急と老年医学の実習のみ必修で、残りの実習は各自選択します。一部のマイナー科は選択しない人も出てきます。しかしそれでも理解が浅くなるよりは狭くてもいいから深くするカリキュラムの方が良いと思います。

カリキュラムと評価法 ～将来を左右するテストと実習～



ICU回診直前の様子

ハワイ大学の学生は問診・身体所見とプレゼンテーション・カルテに関して圧倒的に長けていました。それは1年生のうちから週に1回、本物のボランティアの患者に問診・身体所見を取り、先生にプレゼンテーションしたり、カルテを書いたりするからです。もちろん、医学知識のベースもこの2年間でしっかり築きます。日本のCBTに当たる試験が2年生の終わりにありますが、この試験の成績次第では一部の人気の科にはいけなくなります。その他マッチングに大きく影響するのは、3年生の病院実習期間の成績です。ハワイ大学3年生は、カルテ・プレゼンテーション・カンファレンス中の積極性を含めたパフォーマンス全

体を見て付けられる実習点が50%、週1回のPBLのパフォーマンスが25%、実習後に行われるペーパーテストが25%で成績がつけられます。このように低学年の試験の成績や実習中のパフォーマンスが将来に直結するシステムが日々学生を駆り立てるのだと思います。

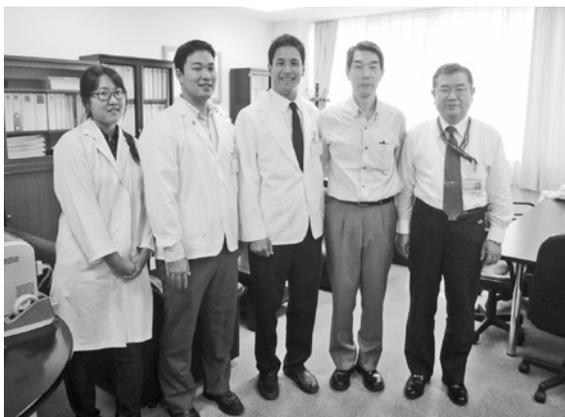
教育に求められるもの ～強制力より動機付け～

人を育てる時にやる気を与えるには有能感、統制感、受容感が必要とされています。有能感とは自分は能力があるという感覚、統制感とは目標が自分には達成できそうだという感覚、受容感とはそれをやるのが本当に他人から求められているという感覚です。これら内発的な動機付けが、賞、罰、恐怖で導く外発的な動機づけより効果が大きく、持続するとされています。基本的に褒めて伸ばすスタイルはおそらく、この有能感を持たせるためでしょう。低学年のころから同じようなことを繰り返しやっているので自信があるのかもしれません。また指導が個々の対して行われるので、その人のレベルに合わせられます。個々のペースで出来るので実現出来そうな目標を設定しやすく統制感も生まれやすいでしょう。そして、学生がカルテを書いてくれることで研修医は追加事項のみ記載すればいいことになり、指導の労力を除けば、仕事は楽になります。学生は時間がある分、問診・身体所見を十分に行い思わぬ発見をすることもあるようです。学生には学生なりの役割があるというのが、学生をより奮い立たせるのでしょ。生き生きしている学生たちの姿は本当に素敵でした。

おわりに

教わったことを記せばきりがありません。医学だけでなく、様々なことを感じ取れた1ヶ月でした。ぜひ、本学にも還元できるよう努力いたします。多くの方々に支えられて無事に研修を終えることが出来ました。心から感謝しております。

■ハワイ大学およびマックマスター大学学生の本学研修



病院長室訪問：左よりSeung-Mi Yooさん、Nathan Itogaさん、Michael Yimさん、木下病院長、三宅病院事務部長

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成22年6月28日から7月9日まで米国ハワイ大学医学部2年生Nathan Itoga君、Michael Yim君、カナダ・マックマスター大学臨床医学前コース4年Seung-Mi Yooさんが、海外選択臨床実習の一環として本学附属病院、北摂総合病院、三島救命救急センターなどで研修を受けました。

学生達は研修内容や医学部、看護学部両キャンパスの案内などのオリエンテーションを受けた後、予め希望を聞いた診療科で本学5年生と共に研修を受けました。今回お願いした診療科は放射線科、第1内科、第2内科、第3内科、精神神経科および、本学連携施設の北摂総合病院、三島救命救急センターで、また公衆衛生学教室によるマルホ創薬研究所などの施設訪問が実施されました。

今回参加した学生達も大変優秀であり、指導していただいた教職員や、実習を共にした本学学生にとっても大変刺激になったと思われ、今後の大学相互交流の進展への大きな一歩となりました。

このたびの研修に際し、ご指導いただいた竹中理事長、木下病院長をはじめ本学教職員各位、北摂総合病院木野院長、三島救命救急センター秋元所長、スタッフの皆様、またエスコートをしていただいた国際交流部を中心とした学生諸君に改めて御礼申し上げます。

(ハワイ・カナダの学生の感想文は中山国際医学医療交流センターのホームページに掲載予定です)



弓道部見学



北摂総合病院にて

■中山国際医学医療交流センター留学支援制度 成果報告

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

本学では毎年多数の若手研究者が海外留学し、また海外からも留学生を受け入れています。センターでは、これら研究者の海外留学や本学受け入れをサポートする目的で、留学支援制度を設けています。これまで多くの若手研究者がこの制度により渡航費の一部支援を受けています。

このたび、整形外科の大槻周平先生が、アメリカ留学を終えて帰学されました。以下にその成果報告を紹介します。



■軟骨留学体験記

整形外科学教室 大槻 周平



留学先のスクリプス研究所

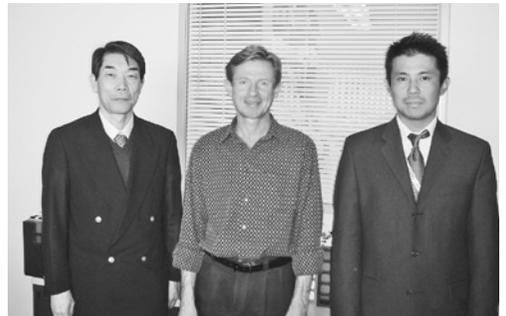
～留学に至るまで～

私は、大阪医科大学を平成10年に卒業後、整形外科医の道を進み、大学院では膝軟骨の研究をしていました。その頃の私と言えば、医師になって約10年、自分の人生はこのままでいいのだろうか？と悩んでいました。たいして勉強もしていなかった割には、学生の頃から「海外でも通用する人間になりたい！」と夢だけはしっかり持っていた私。ちょうど研究の面白さを感じていたこともあり、「もっと研究を掘り下げて、世界最先端の所で軟骨研究をやりたい！」という気持ちが私を留学へ駆り

立てました。ちょうどその頃、膝軟骨と加齢変化についての論文で「Martin Lotz」という名前をしばしば目にしていたこともあり、「この人の下で研究をしたい！」と考えるようになりました。国際軟骨代謝学会でLotz教授と遭遇したとき、彼に思い切って自分の思いを直接伝えたところ、留学の許可を2つ返事でいただきました。今から思えば、Lotz教授はどこかの馬の骨ともわからない私をよく受け入れてくれたものだと思います。その後は、中山国際医学医療交流センターから御援助いただき、また、大阪医科大学整形外科同門の先生や、学生時代所属していたバレーボール部先輩のサポートもあり、楽しい留学生活を経験することができました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

～留学先での経験～

留学先のアメリカカリフォルニア州サンディエゴにあるスクリプス研究所は、1961年の設立以降3名のノーベル賞学者を輩出している全米屈指の私立研究所です。近くにはサンディエゴ大学や、多くの研究所があり、お互いが協力、切磋琢磨している地域です。そのようなレベルの高い所に飛び込んだ私ですが、人格者のMartin教授とカリフォルニアの青い空の下で育った優しい同僚達のおかげで、仕事場にはすぐに溶け込むことができました。最初は、試されていることをひしひしと感ずることが多く、遅くまで研究室から帰らない日々が続きましたが、何一つ文句も言わずについてきてくれた妻には本当



留学先の研究室にて：左から木下教授、Lotz教授と筆者

中山国際医学医療交流センター・教育センター

に感謝しております。その後は、国際学会での講演、論文発表などを経験し、アメリカリウマチ財団のフェローに選ばれたことで、少しずつラボのメンバーにも認められたことを感じ自信がつかってきました。しかしながら、デフレの影響なのか住まいを急に追い出されたり、山火事が近くまで迫ってきたり、データの詰まったパソコンが壊れてしまったりといろいろ問題は続きましたが、今となっては「お金が無くても元気なら何でも乗り越えられる！」という自信もつかしました（笑）。



送別会ランチパーティー：右端からLotz教授、筆者、そして同僚たち

～今後の目標と課題～

私は学生時代、決して真面目な生徒とはいえませんでした。しかしながら留学させていただいたおかげで、自分が熱中することができる「軟骨研究」に巡り会うことができ、医師のみならず一人の人間としての視野も広がり、人生のプラスとなった事は言うまでもありません。今後は、少しでも大阪医科大学の発展に貢献できるように努力していきたいと思っております。貴重な経験をさせていただき本当にありがとうございました。



■教育センターレクチャーシリーズ12

「PBL チュートリアル教育を考える:多様な展開と将来への展望」

教育センター 宮本 学



スモールグループセッションの様子 (CRE)

教育センターレクチャーシリーズ12「PBL チュートリアル教育を考える：多様な展開と将来への展望」が2010年7月8日（木）午後5：00～7：00に新講義実習棟6階P615教室で行われた。中山国際医学医療交流センターとの共催で、参加者は、本学2～6年生19名、京都大学6年生1名と本学、米田博、河野公一、花房俊昭、岡田仁克、白田寛、清水宏泰、宮崎彩子、藤田一彦、各先生であった。ハワイ大学の学生2名、カナダマックマスター大学の学生、本学学生が10分間ずつ各校のPBLについて説明した後、3グループに分かれ臨床診断に焦点を当て

たCREを1時間30分行った。医学教育をこの場で体験し語り合うことでそれぞれの立場から本学の医学教育と海外交流をさらに進めることが出来ると確信した、大変有意義な会であった。



ハワイ大学学生によるハワイ大学のPBLの説明



平成22年度 市民公開講座

■第2回

平成22年度 5月15日(土) 14時～ 臨床第一講堂

『増えている前立腺がん
～前立腺がん検診の大切さ～』
泌尿器科 助教 水谷 陽一

『前立腺がんの薬物療法(抗男性ホルモン剤)』
附属病院薬剤部 片岡 憲昭

『前立腺手術後の排尿ケアについて』
附属病院看護部 看護師主任 中濱 智子



■第3回

平成22年度 6月19日(土) 14時～ 臨床第一講堂

『ペインクリニックでの痛みの治療』
麻酔科 講師 西村 渉

『ペインクリニックで使用される薬の正しい理解』
附属病院薬剤部 和田 有可里

『痛みと日常生活』
附属病院看護部 看護師主任 西村 あかね



平成22年度 市民公開講座開催予定

回数	開催日	演 題	講師(医師)	演 題	薬剤部	薬剤部
					看護部	看護部
第4回	9月4日(土) (第1土曜日)	日本人に多い目の病気 緑内障って?	眼科 講師 杉山 哲也	緑内障に影響を及ぼす お薬について		高嶋 美季
				正しい点眼方法		上野山 恵子
第5回	11月6日(土) (第1土曜日)	他人に言えない悩み ～頻尿と性器脱～	産婦人科 講師(准) 田辺 晃子	頻尿の治療薬		平 祥子
				頻尿時の留意事項		金江 由香
第6回	12月18日(土)	ウイルス肝炎と肝がん を克服するために	内科学Ⅱ 講師 福田 彰	インターフェロンについて		牧 智恵子
				インターフェロン治療中の 日常生活		末光 茜
第7回	平成23年 1月15日(土)	慢性腎臓病(CKD)を 知ろう	血液浄化センター センター長 井上 徹	お薬と腎臓の話		牧野 順子
				腎臓病の食事と日常生活		澤井美奈子

医学会春季学術講演会 学内行事

平成22年度 医学会春季学術講演会

日 時： 平成22年 6 月 9 日（水）16時00分～18時00分
場 所： 臨床第1 講堂

[特別講演]

『頸部リンパ節腫脹の診断と治療』

大阪医科大学 耳鼻咽喉科学教室
教授 河田 了



[特別講演]

『加齢と循環器疾患
－ヒトは血管とともに老いる－』

大阪医科大学 内科学Ⅲ教室
教授 石坂 信和



研究奨励賞受賞者表彰

病理学教室

枝川 豪 先生

形成外科学教室

大谷 一弘 先生

整形外科学教室

嶋 洋明 先生



学長室にて：

前列左から

河田教授、竹中学長、
石坂教授

後列左から

谷川教授、朝日教授、
黒岩教授

新入生歓迎会（炎祭）開催



6月5日（土）、新入生歓迎会が学友会主催でさわらぎキャンパス体育館及び本部キャンパス文化部クラブハウス前中庭にて開催されました。さわらぎ体育館では学生参加のフットサル大会が行われました。引き続き、夕方には、本部キャンパス文化部クラブハウス前にて、竹中学長、花房教育機構長、林看護学部長の鏡割りが行われ、クラブ参加（運動部・文化部）の模擬店があり、大勢の医学部・看護学部学生等でにぎわいをみせました。

PA会総会および教育懇談会開催



平成22年度PA会総会が4月24日（土）午後2時から本学新講義実習棟において、竹中学長はじめ植木理事長、鈴木教育センター長、PA会会員63名の参加を頂き開催されました。

当日の議事は以下のとおりです。

- 1) 挨拶（PA会杉野会長、竹中学長、植木理事長）
- 2) 平成21年度PA会事業報告及び決算報告、会計監査について
- 3) 役員を選出について
- 4) 平成22年度の活動方針（案）について

挨拶の中で、PA会杉野会長からPA会設立の主旨と活動状況について、竹中学長から本年度の医師国家試験結果とその対策、また今後の教育への取り組みについて、そして植木理事長からは本法人が今後取り組むべき課題等についての説明がありました。その後、PA会杉野会長、PA会今津次期会長のもと議事が進行されました。総会に引き続き、PA会主催の教育懇談会が開催され、鈴木教育センター長による挨拶の後、教育センター教員、学年担当教員による個別教育懇談会が行なわれました。

生前献体者文部科学大臣感謝状伝達式・ご遺骨返納法要



生前献体者に対する文部科学大臣からの感謝状伝達式が6月22日（火）午後1時から第2会議室において挙行されました。

また、これに引き続き、ご遺骨返納法要が午後2時から光松寺（本学菩提寺）において、ご遺族の方々をお迎えし、竹中学長、大槻解剖学教授、解剖学教室教職員および医学部学生の参列のもとに厳かに執り行われました。式典は光松寺霊群住職の読経に始まり、33位の御霊位と献体に深いご理解をいただきましたご遺族に対して、大槻教授、学生代表が祭文を奉読し感謝の意を表しました。

更に読経の中、代表焼香に続いて参列者全員が焼香を行った後、竹中学長から感謝状を伝達し、学生からご遺族の手にご遺骨をお返ししました。

平成22年度 看護専門学校特別講演会開催



日時：平成22年4月26日（月） 14：40～16：10

場所：看護専門学校講堂

演題：「幸せになるために笑いましょう」

講師：日本笑い学会会員

上條美代子 先生（保健師・看護師）

上條先生からのメッセージ：『看護は、知恵・わざ・こころを働かせながら行う仕事です。どんな時でも笑顔で優しく温かく忍耐強く向き合うために、時には上手く切

れて発散してパワーに変えよう！笑いは生活技術です。幸せになるために意識して笑いましょう！』



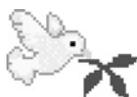


ナイチンゲール生誕祭

平成22年 5月 7日

第20回目となるナイチンゲール生誕祭は、生誕祭委員が中心となり、1年間かけて企画運営をし、当日を迎えました。全員でのナイチンゲール像への献花、誓詞斉唱、聖灯拝受のあと、ナイチンゲールの業績紹介となりました。今年は「ナイチンゲール～看護と記章～」のタイトルで、ナイチンゲールの活躍とナイチンゲール記章日本人受賞者の紹介があり、興味深い発表となりました。その後、学年の代表者が看護に対する想いを発表し心新たにしました。

式典終了後は、2・3年生の縦割りグループ編成で、附属病院に入院中の患者さまを訪問させていただきました。「いいナースになってくださいね」と励ましの声をかけていただき感激している人、「緊張して顔が引きつって患者さんに返す言葉が出なかった」と残念そうにしている人様々でした。翌日、訪問させていただいたある患者さまから、感謝の言葉と心のこもったメッセージが届きました。メッセージは学内で掲示させていただきました。ありがとうございました。



白友祭

平成22年 5月 8日

心地よい五月晴れに恵まれた、今年で5回目を迎える白友祭は、白友祭委員が先輩後輩の枠を超えて計画し、1年間をかけてこの日を迎えました。PR活動として今年も高槻ケーブルテレビの「街かどほっとらいん・週間街かどほっとらいん」に出演して放映していただきました。

晴天の余りにか、例年より参加される方々が少ない印象は受けましたが、毎年來校されるご家族連れや学童保育室の子どもさんの参加も多く、賑やかな1日になりました。健康相談・健康指導コーナー、模擬店、様々な体験コーナー…、今年が目玉は何といっても「ハーモニカ演奏」。日本のコンクールは勿論、世界大会で優勝された実績をお持ちの木谷悦子先生にすばらしいハーモニカ演奏を披露していただきました。約60分間でしたが、最後にいきものがかりの「YELL」を演奏していただき、看護学生へのエールももらいました。ハーモニカの音色に魅了されたひとときとなりました。

ちびっ子工作コーナーでは、牛乳パックやペットボトルを用いてパクパク人形と剣玉を作成しました。はさみやのりを使い真剣な表情で取り組む子ども達の姿が印象的でした…。

沢山の方と温かい心の交流を持つことができた1日でした。ご参加いただいた方々に、心から御礼申し上げます。



■看護部新人交流会を終えて

65病棟 庄司絵里加 福 優奈



私たち新人看護師は4月から看護師としてそれぞれ各部署に配属されて働きはじめました。新しい環境で同期や先輩方と上手くやっていけるのか？などの人間関係や、学生の頃とは違い社会人としての自覚や責任を持たなくてはいけないことなど、配属される前から様々なことに対して不安を感じていました。実際に病棟で働き始めると、覚える量の多さや患者さんの把握の大変さに驚き、自分はこの先看護師として本当にやっていけるのかどうか不安はさらに大きくなっていきました。

そんな時、配属されてから約3週間目に新人交流会がありました。新人交流会の会場は茨木のエキスポパークホテルでした。出席人数は約300人で、新人看護師だけでなく、多くの先輩方も出席してくださいました。新人交流会では、各部署ごとで新人看護師の紹介を含めた病棟紹介を行いました。それに向けて事前に、先輩方と衣装や台詞などの発表内容を具体的に話し合い、練習をしました。その中で先輩方と関わる機会が増えていき、新しい環境になかなか慣れず緊張して不安ばかりだった気持ちが少しずつ和らいでいきました。

当日は全25部署が順番に発表をしていくのを見て、どの部署もそれぞれ個性があり、発表に向けて新人看護師と先輩看護師が協力してきた様子が感じ取れるとともに、笑いもあって会場全体で楽しむことができました。私たちはそんな他の部署の発表の凄さに圧倒され、自分たちの発表が近づくとともに緊張も高まっていきました。そんな時に、師長さんや主任さん、先輩方が声を掛けて下さり、リラックスした状態で無事に発表を終えることができました。

発表後、私達の部署は万博記念公園でお弁当を食べたり、バレーボールをしたりと、交流を深めることができました。

先輩方と関わっていく中で、仕事中では見られない先輩方の一面や病棟の雰囲気を知ることができ、私たちにとって今回の新人交流会はとても意味のある良いものとなりました。

今はまだ仕事にも慣れず、自分の知識・技術・経験不足に苦悩したり戸惑うことの多い日々ですが、先輩方からの優しく時に厳しい指導やアドバイスを基に少しずつ成長していきたいと思います。そして早く先輩方のような看護師になれるよう、日々自己を振り返りながら努力していきます。



■大学安全対策室活動報告

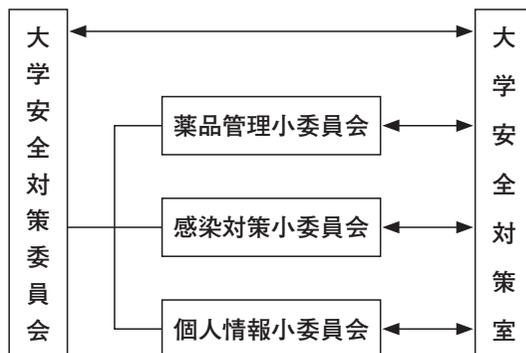
平成21年1月に総合研究棟の研究室で薬品ビンの破損事故から大学安全対策委員会が立ち上がりました。

その後、大学安全対策室は平成21年6月に設置され、図のように大学安全対策委員会及び3つの小委員会の支援をしています。

さらに附属病院医療安全推進部等、関係部署との連携を図り、教育講演や研修会等、教職員の安全に対する意識向上を目的とした啓発も行っています。

平成21年6月から平成22年6月までに大学安全対策委員会が6回、薬品管理小委員会が11回、感染対策小委員会が4回、個人情報小委員会が3回それぞれ開催されました。

大学安全対策委員会は小委員会からの報告を受け、承認後、学務課や総務課を通して教授会、大学協議会、担当理事運営会議への報告や審議依頼をしています。



連絡先 総合研究棟1階 内線3404・3405 PHS 6420 E-mail sps000@art.osaka-med.ac.jp

大学安全対策委員会	
大学安全対策委員会規程改正	
規程改正に伴う委員長・副委員長および新委員の紹介	
委員会開催の定例化	
大学安全対策室ホームページ立上げ	
薬品管理小委員会	研究室等で使用されている各種薬品の管理体制の検討
化学物質等管理規程作成	
化学物質等管理取扱手引書作成	
化学物質等管理責任者・保管責任者の設定と選出	
毒物劇物・高圧ガスアンケート実施	
麻薬・向精神薬アンケート実施	
計量管理規定状況及び対応	
大学院統合講義の実施	
感染対策小委員会	法人・大学職員・学生等に対する感染対策の検討
新型インフルエンザ対策の感染対応について学内周知	
臨床実習の学生への体温計配布	
臨床実習の学生における検温・体調管理表チェックによる体調管理の強化	
新型インフルエンザワクチン接種優先順位	
入試に関係する教職員のワクチン接種	
新型インフルエンザ学年閉鎖・クラブ活動停止の基準作成	
新型インフルエンザワクチンによる学園祭開催対応	
濃厚接触者に関する経過観察	
医療機関における学生分ワクチン確保の提言	
ワクチン供給体制再構築	
ワクチン自己負担に対する本学の補助	
結核患者に対する学生感染対応	
百日咳流行に関する出席停止等の対応	
個人情報小委員会	研究・教育、雇用などに付随する個人情報の保護体制の検討
学校法人大阪医科大学プラバシーポリシー作成	
学校法人大阪医科大学プラバシーポリシーホームページ掲載	
大阪医科大学個人情報保護規程作成	

■医療に係る安全管理のための職員研修 第24回事例検討会

事例・発表部署：① 救急カート運用について

救急カート運用に関する医療改善委員会 新田雅彦先生

② 緊急気道管理マニュアルについて

気道確保に関する 医療改善委員会 藤田一彦先生・小林正直先

開催日：平成22年6月4日（金）午後5時～6時

出席者：479名

6月4日（金）午後5時より、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、木下病院長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に事例検討会が開催されました。

1事例目は、救急カート運用に関する医療改善委員会委員長 新田先生より、本院での事例をもとに、院内急変システムの現状、また救急カートの新しい運用方法等について、スライドを交えとても分かりやすく発表していただきました。

2事例目は、気道確保に関する医療改善委員会委員長 藤田先生、委員 小林先生より、アルゴリズムの紹介およびビデオで分かりやすく呼吸管理の良い例、悪い例を提示しながら説明していただきました。

アンケートでも、`日々の点検の重要性が理解できた、`スライドやビデオを使っのわかりやすい事例紹介であり大変勉強になった、等の意見が多く寄せられました。

最後に閉会の挨拶として大道医療安全推進部長より謝辞を述べられ、講演が盛会のうちに終了しました。



***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（大学院生・非常勤<診療許可有>・アルバイト・派遣・委託職員等も含む）が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

業務等の都合で出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDがご覧いただけますので、お問い合わせください。

（医療安全対策室 2号館5階 内線2990）

■第10回感染対策研修会開催報告

去る5月28日（金）、臨床第一講堂において感染対策室としては10回目となる『感染対策研修会』を開催いたしました。講師は微生物学教室准教授、感染対策室室員である中野隆史先生で『すべてのスタッフに必要なスキル「標準予防策」』という内容で行われました。

月末、週末の日程であるにもかかわらず、17時からの研修会は満席となった為にお帰りいただいたスタッフの方もいらっしゃいました。この場を借りて、お詫び申し上げます。

内容の紹介をいたしますと、最初に、米国のCDCガイドラインの推移から標準予防策の手洗いについての説明があり、昨年の春からの新型インフルエンザ流行時に幼稚園、保育園等で推奨していた『あわあわ手あらいのうた』のDVDを紹介し、あわせて手洗いの必要性などの説明がありました。続いて、速乾性摺込み式手指消毒剤使用のタイミング、一処置一手洗いの必要性などが、ダンスを交えたDVDで説明されました。その後、手袋使用の必要な処置、ケアとして採血時の手袋の使用、血液検体を運搬するときにはユニパック（チャック付ビニール袋）と片手手袋の使用についてを再確認しました。でも、手袋ってそんなに使ってもったいなくないの？と、治療と予防にかかるコスト、個人防護具のコスト紹介などがあり、適切な個人防護具は経済的な効果があることが示されました。最後にICTメンバーに求められる資質や感染対策室の紹介、『何かあればいつでも連絡してほしい、患者さんのため現場のみなさまと一緒に院内感染を減らしたい』と訴え、研修会は無事終了いたしました。

今回、聞き逃したみなさん！標準予防策はすべてのスタッフに必要なスキルであることは間違いありません。この30分のDVDを見ていただき、標準予防策の再認識をしていただきたいと思います。

感染対策室



中野先生

■近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラムの外部評価委員会の開催

平成22年5月14日（金）午後3時から近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラムの外部評価委員会を開催しました。外部評価委員には愛媛大学医学部総合臨床研修センター高田清武教授、奈良県立医科大学総合医療学藤本眞一教授、神戸大学医学部災害・救急医学中尾博之准教授にお願いし、連携大学病院からは関西医科大学、兵庫医科大学、近畿大学・医学部のコーディネータを始め関係者がテレビ会議を活用して20・21年度の事業活動について報告し、高い評価をいただきました。

評価内容はこの事業で期待されている専門医取得状況や各連携大学病院間での出向状況や登録者数など多岐にわたるご質問があり、非常に高い評価をいただきましたが、各連携大学病院での取組みに差があり、今後は連携大学病院間での専門研修医の交流を拡大するためにも、この事業の取組みを理解いただけるよう各診療科の先生方に働きかけたいと考えています。

また、現在活動実績と外部評価結果の内容を冊子にまとめ、7月中旬の完成を目指しています。



テレビ会議による外部評価委員会

■ 第2回大阪医科大学附属病院緩和ケア研修会 開催報告

緩和ケア委員会・緩和ケアチーム 桑門 心

2009年4月より当院はがん診療連携拠点病院に指定され、三島圏域のがん診療に対する当院の担う役割はますます大きくなってまいります。拠点病院の重要な責務の1つに緩和ケアの充実があげられます。近年がん医療におけるチーム医療の重要性が認識されつつあり、特に患者を全人的に捉えて進めて行く緩和ケアはそのチーム医療が力を発揮する分野であります。この研修会は昨年度も基本的な緩和ケアの修得を目的として院内の医師、看護師を対象に開催されましたが、本年度はさらに参加職種の幅を広げ、①緩和ケアの基礎的知識を習得する、②多職種によるチーム医療を学ぶ、という点を目標に研修会を開催いたしました。参加職種は、医師・看護師・薬剤師・作業療法士・理学療法士・MSWで、計37名の参加があり、「普段ゆっくりと聞くことの出来ない色々な職種の意見が聞けてよかった」、「チームで考えるきっかけになった」とチームでのアプローチに手応えを感じたという意見も多く見られ、充実した一日になったと思います。今後も、院内での緩和ケアを充実させていくために、より多くの部門、年代から参加して頂けるような研修会を行っていきたいと思います。開催にあたっては、修了書の授与を行って頂いた小野恵美子看護部長をはじめ、多くの方々に多大なる協力をしていただきました。深く御礼を申し上げます。



1. 開催日時 平成22年7月10日（土） 9：00～18：10
2. 開催地 大阪医科大学 図書館棟4階 第1会議室
3. 運営組織

研修会主催責任者	木下 光雄
共催者、後援者	瀧内 比呂也 小野 恵美子
研修企画責任者	桑門 心 黒岩 真紀
研修会協力者	上田 育子 岡本 洋平 川部 伸一郎(川部医院) 木下 真也 高橋 紀代 堤 淳 長嶺 美奈子 二宮 ひとみ 藤原 俊介 本村 暁子 森本 由美
アシスタント	角江 司 河井 祥人

協賛：がんプロフェッショナル養成プラン



緩和ケア研修会報告 寄付金報告

4. 参加受講者

氏名	職種	氏名	職種	氏名	職種
家久真奈	看護師	後藤絢子	研修医	平田有基	レジデント
石川智子	レジデント	小林豊英	薬剤師	藤原 淳	レジデント
市橋沙織	看護師	島田 亮	研修医	古田彬子	看護師
伊藤 彩	看護師	末光 茜	看護師	本庄紋佳	研修医
伊藤志保	レジデント	鈴鹿隆保	研修医	本里玲美	看護師
井上愛子	看護師	平 祥子	薬剤師	前澤加奈	MSW
岩井由香	作業療法士	瀧口友美	看護師	松川美佳	看護師
植木絢子	研修医	田所洋志	MSW	山下知美	看護師
大地史広	レジデント	谷村浩子	作業療法士	横山紘子	レジデント
大野有美子	看護師	西尾桂奈	レジデント	吉田沙弥香	看護師
岡本 淳	理学療法士	西岡奈津子	看護師	依藤直紀	レジデント
川口真平	レジデント	西口只之	理学療法士	以上37名	
黒川達人	研修医	早野美穂	看護師		

■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年4月16日から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は1,270,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年6月20日までの寄付金入金件数は386件、金額は129,782,000円です。

(順不同・敬称略)

藤本かつ子 久保田利男 斎藤 隆晴 匿名2件

■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年4月16日から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は3件、金額は900,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年6月20日までの寄付金入金件数は36件、金額は13,200,000円です。

(順不同・敬称略)

灰塚 隆敏 大森 英夫 加藤 一博

■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年4月16日から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は2件、金額は300,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は93件、金額は28,071,000円です。

(順不同・敬称略)

徳久美智恵 林 優子

■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年4月16日から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は14件、金額は37,030,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年6月20日までの寄付金入金件数は67件、金額は153,830,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人微風会 医療法人社団浪方医院 浪方 典宏 渡邊 潔 鈴木 潤一
池上 昇司 吉村 宅弘 神部 賢一 金 花仙 鈴木 康道 匿名4件

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年4月16日から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は3件、金額は140,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年6月20日までの寄付金入金件数は27件、金額は3,183,460円です。

(順不同・敬称略)

医療法人廣仁会 宮川 擴 小林 正

■ 大阪医科大学基金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年4月16日から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は3件、金額は250,000円です。

ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年6月20日までの間の寄付金入金件数は133件、金額は14,342,000円です。

(順不同・敬称略)

小野村敏信 高橋 憲正 匿名1件

※これまで恒常的なご寄付はフレンズ会で承っていましたが、現在、「大阪医科大学基金」で承っております。
今までどおり恒常的なご寄付を賜りますようお願いいたします。

<寄付についてのお問い合わせ>

募金推進本部

TEL：072-684-7243(直通) FAX：072-681-3723

E-mail：kikin@art.osaka-med.ac.jp



訃報

本学名誉教授（薬理学）の安藤襄一先生（91歳）が、去る平成22年5月18日（火）に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

主要会議報告

■主要会議とその主な議題(平成22年5月～7月)

【理事会】

[平成22年5月11日]

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学事務組織並びに事務分掌規程の一部改正について

—報告事項—

1. 「周産期医療環境整備事業」に係る内部監査中間報告
2. 担当理事運営会議報告
3. 日本私立医科大学協会理事会報告
4. 理事長交代に伴う連帯保証人の変更について
5. その他

[平成22年5月29日・その1]

—審議事項—

1. 評議員の選出について
2. 周産期環境整備事業補助金の経緯と今後の方針について
3. 平成21年度決算案承認について
4. 平成21年度事業報告承認について
5. 第3号基本金の組入について

[平成22年5月29日・その2]

—審議事項—

1. 評議員の選出について
2. 平成21年度決算案承認について
3. 平成21年度事業報告承認について

—報告事項—

1. 大阪医科個人情報保護規程の制定について

[平成22年6月8日]

—審議事項—

1. 医学部長の兼務(委嘱)について
2. 周産期環境整備事業補助金の経緯と今後の方針について

—報告事項—

1. 学校法人大阪医科大学懲戒委員会細則の制定について
2. コンプライアンス委員会の開催について
3. 担当理事運営会議報告
4. 日本私立大学連盟報告及び日本私立医科大学協会報告
5. 学事関係報告

6. 病院関係報告

7. オーダリング導入に関する報告

8. 周産期センター整備工事について

9. 医学部・看護学部入学試験概要報告

10. 理事会運営検討委員会について

11. 大阪薬科大学との連携について

[平成22年7月13日]

—審議事項—

1. 学校法人大阪医科大学理事委員会規程の一部改正について

2. 学校法人大阪医科大学コンプライアンス委員会規程の一部改正について

3. 次期病院医療情報システムの更改について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告

2. 日本私立医科大学協会理事会報告について

3. 病院の経営分析(診療科別収支)について

4. 学事関係報告

5. 病院関係報告

6. 学校法人大阪薬科大学との連携について

7. その他

【評議員会】

[平成22年5月29日]

—審議事項—

1. 評議員の選出について

—報告事項—

1. 周産期環境整備事業補助金について

2. 平成21年度決算報告について

3. 平成21年度事業報告について

4. その他

【大学協議会】

[平成22年5月24日]

—協議事項—

1. 大学安全対策について

2. 医学部・看護学部両学部の交流会開催について(案内)

3. 看護学部開設記念式典について(報告)

4. 学内規程類の見直しについて

5. その他

- 1) 三大学医工薬連環科学教育研究機構構成員

の新規選出について

- 2) 周産期環境整備事業(NICU等設置)の返金について
- 3) その他

[平成22年6月28日]

—協議事項—

1. 看護学部開設に伴い改正を必要とする規程類(総務課と学長室での検討案)について
2. その他

[平成22年7月26日]

—協議事項—

1. チーム医療を実現する体系的学士課程の構築について
2. 平成22年度外郭団体奨学金推薦一覧について
3. 平成23年度入学式の日程について

【大講座主任教授会】

[平成22年5月25日]

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 大講座主任教授会の役割について
3. 今後の大講座主任教授会について

【医学部教授会】

[平成22年5月12日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育(理科分野)の後任教授について
3. 医師国家試験対策について
4. 大阪医科大学個人情報保護規程(案)について
5. 鈎奨学基金運営委員会委員の選出について
6. 中山国際医学医療交流センター長の選出について
7. 入試実務委員会委員長の決定について
8. 平成22年度奨学生推薦一覧(案)について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 中山国際医学医療交流センター長報告
3. 教育センター長報告
4. 広報・入試センター長報告

[平成22年5月26日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育(理科分野)の後任教授について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 倫理委員長報告

[平成22年6月2日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育(理科分野)の後任教授について
3. 医学部長の選任について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告
4. 中山国際医学医療交流センター長報告
5. 卒後臨床研修センター長報告
6. その他

[平成22年6月16日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 総合教育に関する学長諮問委員会の立ち上げについて
3. 看護学部開設に伴い改正を必要とする規程類(総務課と学長室での検討案)について
4. 大阪医科大学奨学金貸与規程及び大阪医科大学奨学金貸与規程施行細則の一部改正について
5. 大阪医科大学看護学部開設調整委員会規程の廃止について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. その他

[平成22年7月7日]

—審議事項—

1. 人事に関する件

—報告事項—

1. 理事会報告

主要会議報告

2. 学長報告
3. 教育機構長報告
4. 教育センター長報告
5. 倫理委員長報告
6. 大学安全対策委員会報告
7. その他

[平成22年7月21日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 助教の申請基準に係る教授会申し合わせについて
3. 大阪医科大学入試実務委員会規程の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 倫理委員長報告
4. 教育センター長報告
5. キャリア形成支援センター長報告

【大学院医学研究科委員会】

[平成22年5月12日]

—審議事項—

1. 平成22年度第1回学位申請受理可否について
2. 平成22年度リサーチ・アシスタントの任用について
3. 平成22年度共同利用実験施設セミナーについて
4. 平成22年度大学院研究指導体制について
5. 平成23年度大学院入学試験について

—報告事項—

1. (5/15)がんプロフェッショナル養成プラン4 大学医療フォーラムについて

[平成22年5月26日]

—審議事項—

1. 平成22年度ティーチング・アシスタントの任用について

—報告事項—

1. 平成22年度第I回学位論文公開審査について

[平成22年6月16日]

—審議事項—

1. ティーチング・アシスタント規程の一部改正

について

2. リサーチ・アシスタント規程の一部改正について
3. 大阪医科大学大学院学位規程施行細則の一部改正について

—報告事項—

1. 大阪医科大学個人情報保護規程施行に伴う大学院個人情報保護規程の廃止について
2. 日本学術振興会育志賞について
3. (がんプロ)三島圏域がん・緩和医療セミナーについて

[平成22年7月7日]

—報告事項—

1. 公益財団法人上原記念生命科学財団研究推進特別奨励金及び来日研究生助成候補者募集について
2. 平成23年度大学院医学研究科(博士課程)入学試験要項について
3. 平成22年度第1回学位記授与式について

[平成22年7月21日]

—審議事項—

1. 平成22年度第I回学位論文審査に基づく可(合)否決定について
2. 平成22年度論文提出のための語学試験について
3. 大学院生の再入学について
4. 学位論文のデジタル化実施に係る著作権処理(共通許諾)手続への参加について
5. 大学院教員組織等の整備について

—報告事項—

1. 平成22年度第1回『臨床研究教育研修会』開催について

【看護学部教授会】

[平成22年5月12日]

—審議事項—

1. 看護学部奨学金貸与規程施行細則について
2. 平成22年度日本学生支援機構奨学生の推薦候補者について
3. 教授懇親会積立金について
4. FD出張について
5. 大阪医科大学看護学部紀要規程(案)について
6. 単位認定書について

7. 授業評価表について

—報告事項—

1. 大学協議会報告
2. 学生生活支援センター報告
3. 教育センター報告
4. 広報・入試プロジェクト委員会報告
5. 専門看護師教育課程認定手続きの説明会出席について
6. 大学要覧の看護学部英語標記と教員紹介について
7. 平成22年度科学研究費補助金採択状況について
8. 大学安全対策委員会委員一覧について
9. 個人情報保護規程(案)について
10. 化学物質等管理規程(案)について
11. その他

[平成22年6月9日]

—審議事項—

1. 看護学部開設調整委員会規程の廃止について
2. 看護学部看護実践研究センター規程について
3. 看護学部投稿規定(案)について
4. 看護学部人事変更について
5. 実習場所追加について(老年看護学)
6. 入試実務委員会委員の選出について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 大学協議会報告
3. 大学安全対策委員会報告
4. 各種委員会報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
5. 各種委員会配置(追加分)について
6. 大阪医科大学学内規程検討委員会規程案の作成について
7. 病院医療相談部年間行事について
8. 看護系大学協議会報告
9. その他

[平成22年6月16日]

—審議事項—

1. 平成22年度学事予定表について

—報告事項—

1. 看護実践研究センター副センター長について

2. 大阪医科大学看護学会設立について

[平成22年7月14日]

—審議事項—

1. 学部共同研究費執行について
2. 大阪医科大学看護学部奨学金貸与規程施行細則の改正について
3. 看護実践研究センター規程の改正について
4. 授業評価の公開について
5. 成績の通知について
6. オフィスアワーの明示について
7. 基礎看護学実習1の教員協力体制について
8. 日常生活援助技術に関する演習協力について
9. 紀要の正式名称について
10. 改定を必要とする規程類について
11. 図書費の分配について
12. 平成22年度看護備品管理納入予定リスト(平成22年度看護学部設置経費)について
13. 養護教諭Ⅱ種免許申請について
14. 大阪医科大学看護学部入学時特待生規程の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 大学協議会報告
3. 各種委員会報告
 - 1) 学生生活支援センター報告
 - 2) 教育センター報告
 - 3) 看護実践研究センター報告
 - 4) 入試実務委員会報告
 - 5) FD部会報告
 - 6) 看護備品管理報告
4. その他

[平成22年7月21日]

—審議事項—

1. 学部共同研究費執行の為の規約(案)について

—報告事項—

1. 看護学部物品購入事務処理について

行事日程

■主な行事日程(平成22年9月～平成22年11月)

9月1日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会・診療科長会 看護専門学校授業開始 看護専門学校災害避難訓練	14日(木)	平成22年度高槻市大学交流センター事業市民講座 (於：高槻市総合市民交流センター)
3日(金)	看護専門学校交流会	16日(土)	解剖慰霊祭
4日(土)	平成22年度第4回市民公開講座	17日(日)	看護学部 入試相談会
5日(日)	看護学部 入試相談会	20日(水)	医学部教授会
8日(水)	看護学部教授会	21日(木)	平成22年度高槻市大学交流センター事業市民講座 (於：高槻市総合市民交流センター)
12日(日)	看護学部 入試相談会	24日(日)	医学部入試説明会&入試対策ゼミ (第2回) 看護学部入試説明会&入試対策ゼミ (第2回)
14日(火)	理事会	25日(月)	大学協議会
15日(水)	医学部教授会	27日(水)	医学会秋季学術講演会 病院運営会議
19日(日)	看護学部 入試相談会	11月6日(土)	平成22年度第5回市民公開講座
22日(水)	病院運営会議	8日(月)	関西看護学生看護研究大会参加 (看護専門学校2学年)
25日(土)	院内コンサート	9日(火)	理事会
26日(日)	医学部入試説明会&入試対策ゼミ (第1回) 看護学部入試説明会&入試対策ゼミ (第1回)	10日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会・診療科長会・看護学部教授会
27日(月)	大学協議会	14日(日)	看護学部 推薦入学試験
10月3日(日)	看護学部 入試相談会	19日(金)	看護学部 推薦入学試験合格発表
6日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会・診療科長会	22日(月)	大学協議会
7日(木)	平成22年度高槻市大学交流センター事業市民講座 (於：高槻市総合市民交流センター)	23日(火)	医学部入試説明会&入試対策ゼミ (第3回)
10日(日)	看護学部 入試相談会	24日(水)	医学部教授会 病院運営会議
12日(火)	理事会		
13日(水)	看護学部教授会		



お詫びと訂正

前回発行の学報第84号に一部誤りがありましたので、お詫びし訂正致します。

P17 病院長就任挨拶 略歴中の1945年4月1日生→1947年

保健管理室からのお知らせ

■ 学生定期健康診断を終えて

4月～5月に医学部・看護学部学生、大学院生、看護専門学校学生の平成22年度定期健康診断を実施しました。受検率は看護学部学生、大学院生、看護専門学校学生については、全員が受検していますが、医学部学生は未受検者が数名おり、受検率は99.5%となっています。医学部学生は他学生に比べると、健診期間中に受検しない学生も多く、来年度は全員が健診期間中に受検するよう勧奨していきたいと考えています。

有所見者については学校医の判断に従い、再検あるいは受診の勧奨、生活指導を実施しています。貧血、尿酸値、脂質値での所見が目立ち、食事などを中心に保健指導を実施しました。

■ 特定業務従事者健診、特殊健診、長時間労働者健診について

平成22年度特定業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診、および長時間労働者健診を5月26日（水）～28日（金）に実施しました。有所見者には産業医の判断に従い、再検や受診勧奨を行いました。長時間労働者健診については、医師の面談対応が必要な職員はいませんでした。

また特定化学物質障害予防規則等が改正され、ホルムアルデヒドが第3類物質から第2類物質へ変更となり、それに伴って6カ月以内ごとに定期健康診断を実施することになりました。保健管理室ではこの法律改正への対応が円滑にいかず、数十名の職員の方々に健診終了後に追加の健診をお願いしました。今後はこのような事がないようにしたいと思います。

■ 平成22年度特定健康診査が始まりました

平成20年度より「高齢者の医療の確保に関する法律」（平成20年4月施行）に基づいて、40歳から75歳未満の医療保険加入者等（任意継続加入者及び被扶養者を含む）を対象に特定健康診査及び特定保健指導を実施してきました。これは内臓脂肪型肥満に着目した生活習慣病予防を目的としています。

平成22年度の対象者には7月半ば頃に、加入者本人には「平成22年特定健診ガイドブック」、扶養者及び任意継続加入者には受診券などが入った加入者宛ての封書を配布致しました。加入者は10月下旬に実施する定期健康診断が特定健診を兼ねていますので、必ず受診をして下さい。また扶養者及び任意継続加入者の方は9月末までに指定機関で受けて下さい。メタボリックシンドロームが健康に与える影響や特定健診の意義についてご理解を頂き、ご協力いただきますよう宜しくお願い致します。

■ 流行性角結膜炎や百日咳の流行について

流行性角結膜炎（EKC）が流行しています。涙液・眼脂で汚染された手指、タオル類、医療器具などを介して接触感染します。以下の症状が出れば、直ちに眼科を受診して下さい。

流行性角結膜炎の症状

- ①眼の異物感
- ②強い眼脂
- ③結膜の充血
- ④搔痒



またここ数年、成人の百日咳感染者が増加しており、大学での集団感染も発生しています。本学職員、学生においても百日咳の罹患者が出ています。百日咳は感染力が強く、乳幼児や基礎疾患を有する患者

保健管理室からのお知らせ

様に感染すると重症化し死亡する事例も報告されています。従って、大学や附属病院内での感染予防と感染拡大防止が極めて重要になります。百日咳は特徴があまりなく、気づかないまま感染源となって感染を拡大させてしまうことがあります。もし咳が1週間以上続く場合は放置せず、感染を疑って受診して下さい。

百日咳の症状

- ①百日咳は飛沫感染で、通常7～10日間の潜伏期の後に発症します。
- ②初期（カタル期 約1～2週間）：鼻水、咳、微熱など風邪様症状
- ③第2期（痙咳期 約2～3週間）：百日咳特有のけいれん性の咳（痙咳）がありますが、成人の場合、百日咳特有の咳を認めないこともあります。
- ④第3期（回復期 約2、3週～）：激しい咳は2～3週間で無くなりますが、時々忘れた頃に激しい咳がでます。

咳エチケットを守りましょう！

咳・くしゃみの飛沫の中や鼻汁にはウイルスや細菌などの病原体が大量に含まれています。咳をする
と病原体を含んだ粒（飛沫）が飛び散り、その飛沫を吸い込んだり、飛沫が付着した手すりやドアノブ
などに触れた手で目、鼻、口を触れたりすると病原体が体内に入り感染します。したがって感染症予防
には衛生的な手洗いとともに咳エチケットが重要です。しかし咳症状があるにもかかわらず「咳エチケッ
ト」を行っていない学生や教職員が見られます。患者様を含め周囲の人に感染させないため、咳エチケッ
トを守りましょう！

- ◎咳・くしゃみが出たら、マスクを着用しましょう。
 - ◎咳をしている人をみたら、マスク着用を勧めましょう。
 - ◎マスクがない時は、手ではなくハンカチやティッシュで口と鼻を覆い、他の人から顔をそむけましょう。
- ※使用したティッシュはすぐにゴミ箱へ!! 必ず手を洗いましょう。



平成22年度インフルエンザワクチン接種申込について

昨年は新型インフルエンザ流行のため、ワクチンについては優先順位での接種など、学生・職員の皆様にご迷惑をおかけしました。現時点では、今年は従来通りのスケジュールでワクチン接種を予定していますので、希望される方は申し込んで受けて下さい。

ワクチンの管理の問題上、申し込みされた方のみ準備しますのでご注意ください。

【申し込み期間】 平成22年9月13日（月）～10月8日（金）

【申し込み方法】 申し込み用紙に記入し、保健管理室まで提出して下さい。

教職員（大学院生含む）は各部署に申し込み用紙を配布しますので、各自記入の上、部署ごとに取りまとめて保健管理室まで提出して下さい。

医学部・看護学部学生、看護専門学校学生は保健管理室まで申込用紙を提出して下さい。

【実施日】 平成22年11月15日（月）～19日（金）

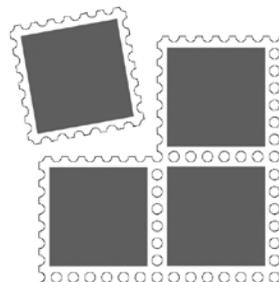
【実施時間】 午後3時～4時30分

【場所】 保健管理室

収集ボランティア！！

使用済み切手を集めて JOCS に寄付しよう！

専用収集ボックスに切り取った切手を
いれてください。
下記のようなことに留意しましょう



☆ポイント☆

- 切手の周囲を5mm～1cm程度残して切り取る
- 切手のギザギザをのこす
- 台紙からはがさない
- 痛むため、ホッチキスや輪ゴムなどでまとめない
- 国内の切手と外国の切手をわける



「JOCS」とは？

日本キリスト教海外医療協力会です。現在、バングラディッシュ、ネパール、パキスタン、タンザニア等の10カ国に医師、看護師を派遣し、その地域の人々の健康を守るために活動しています。古切手は換金され活動資金となります。

<http://www.jocs.or.jp/jocs/>

大阪医科大学附属病院 病院ボランティア支援委員会
(病院ボランティア室 内線 2515)

歴史資料館関係 俳句

■第12回 高槻ジャズストリートの演奏会場として利用されました

高槻市では、平成11年より毎年ゴールデンウィークの2日間にわたり、市内の公共施設や駅前広場など約40会場でジャズの演奏が行われる高槻ジャズストリートが開催されております。

その主催者である高槻ジャズストリート実行委員会（市民ボランティアが企画・運営）と高槻市（後援）より演奏会場の一つとして本学別館（歴史資料館）を利用したい旨の依頼があり、下記の通り開催されました。

日時：平成22年5月3日（月・祝）、5月4日（火・祝）13：00～17：00（両日共）

場所：別館3階 講義室

入場料：無 料

来場者：合計 約700名



◆大阪医科大学俳句会（五・六・七月）

己が上の空碧くする櫻かな

山崎隆司

こんな電と指もて丸をつくりけり

同

あわてん坊尻尾をわすれ青蜥蜴

今井雄介

老鶯や法隆寺北一丁目

中川一成

宇宙より八十八夜のあきつしま

吉田孝江

夏霞象頭山金刀比羅讚岐富士

同

虫干や子の制服の捨てきれず

飯塚久子

茅の輪かな髪にこぼれをそつと挿し

同

吾もまた翳となりけり夕櫻

美濃 眞

新玉葱転がつてゆく誤解かな

同

二上の雄岳雌岳や夏霞

宮脇芳美

浴場の遺構をよぎる青蜥蜴

同

ひと泳ぎしてプール番帰りけり

寺田千代子

アルバムの昔に返りプールかな

羽根美恵子

寂光の中や菩薩の指おぼろ

池田睦子

● 高槻まつりに参加しました ●



表紙絵：ひまわり

JR東海道線桂川駅を出てまもなく、沿線沿いに、食用か、油糧目的か、大輪のひまわりが多数咲いている一角をみつけた。夏空に映える美しい黄色と緑に魅せられたのは私だけでない。何人かの写真家の姿を目にした。向日葵、日輪草、日回りと書かれている。お日さんの動きに合わせて、頭（花）を動かすと言うわけでも無さそうである。

インカでは太陽神の化身とされ、ペルーはひまわりを国花とする。原産は北アメリカのようである。スペインに持ち帰られた後、長くスペインから国外に持ち出されることがなかった。観賞用として、ロシア、中国を経て、17世紀ごろ日本に入ってきたキク科の1年草である。晩夏の風物詩である。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第85号

発行年月 平成22年8月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>